

MYU GUIDE 2021

宮城大学 大学案内 2021

Contents

MYU TOPICS

Mission, Philosophy, History

President's Message

Freshman Core Classes

Department Studies

School of Nursing

Nursing

School of Project Design

Business Planning

Regional Sciences

Value-Creating Design

School of Food Industrial Sciences

Food Resource Development

Food Science and Business

Global Exchange

Graduate School

MYU CAMPUSES

OPEN CAMPUS 2020

Routes to Campuses



グローバル化の進展により、日々の暮らしと世界情勢とのかかわりが深まっています。
適切に情報を選び、冷静な判断のもと、粘り強く物事に取り組む姿勢がますます求められています。
宮城大学は、自ら考え、即戦力として社会へ羽ばたくための力を身につける場所です。
また、学ぶだけでなく、「できること」を一人ひとりが探し、
地域や世界へと視野を広げる出会いの場でもあります。
胸に抱える不安や迷いに、教員や仲間と向き合いながら、
将来への新たな可能性を一緒に探してみませんか。
宮城大学は、挑戦する一人ひとりと、ともに歩み、ともに成長していきます。

Contents

03	MYU TOPICS	18	看護学群	47	国際交流・海外ネットワーク
11	建学の精神・大学の理念・沿革	19	看護学類	48	大学院
12	学長メッセージ	24	事業構想学群		データ(学生数/入学金・学費・奨学金)
13	フレッシュマンコア	25	事業プランニング学類	49	キャンパス紹介
17	学群・学類での学び	29	地域創生学類	50	オープンキャンパス2020 / アクセス
		33	価値創造デザイン学類		
		38	食産業学群		
		39	食資源開発学類		
		43	フードマネジメント学類		

MYU TOPICS

2019-2020 / MIYAGI UNIVERSITY TOPICS みなさんにお届けしたい、宮城大学の旬な話題をご紹介します。



TOPICS 01

学生の主体的な学びとチャレンジの拠点として、太白キャンパスをリニューアル

大学で「学ぶ」ということは教員による「Teaching」を受けることだけではなく、それを深め自ら学ぶ「Learning」を通して達成されます。宮城大学では、このような対話的かつ主体的な深い学び（アクティブ・ラーニング）に学生が取り組みやすい環境を提供するため、昨年の大和キャンパスに続き、太白キャンパスをリニューアルしました。学生が気軽に集うなかで学びを深める空間として、これまでに3つのラーニングcommonsを開設。授業の課題

や各自の主体的な取り組みなど、仲間と話し合いながら学修することができる「スチューデントcommons」、多文化理解、英語学習、海外留学相談ができる「グローバルcommons」、図書館に行ったり来たりしながら探究的活動を行うことができる「ディスカバリーcommons」。今回のリニューアルにより、授業で学んだ知識から、学生だからこそ柔軟なアイデアが融合し、何かを創造しようとする様々なチャレンジが生まれることが期待されています。

TOPICS 02

Reborn-Art Festival との協創のなかで
課題解決のスキルを磨く

「コミュニティ・プランナー概論及び演習」受講者が中心となり、9月の2日間、Reborn-Art Festival との協創プロジェクトとして牡鹿地区萩浜の漁師と連携しながら、屋台の設営と地元産食材を活用したメニュー開発に取り組みました。地元産のアナゴを使ったメニューを試作したり、地元の漁師から提供されたアナゴの頭や骨を使ったスープの試食を実施。メニューは講義内で学生が構想したアイデアです。宮城大学では、地域が抱える多様な課題の解決や、コミュニティづくりに貢献できる人材を育てるための「コミュニティ・プランナープログラム」を全学群共通の教育科目として展開しています。



MYU TOPICS
【宮城大学の話題】

TOPICS 03

グローバルコミュニケーション能力と
世界への関心を育む体験学修プログラム

「リアル・アジア（オーストラリア）」では、体験的な学修を通じて実践的なグローバルコミュニケーション能力を身に付け、世界への関心を育みます。約2週間のプログラムを通し、世界で活躍するうえで不可欠な知識や、課題発見・解決能力、英語コミュニケーション能力、オーストラリアに関する知識等を養います。渡航前の事前研修をはじめ、PBL（課題解決型学習）を行い、これまでの知識や経験をもとにその解決に取り組む実践的な内容です。2019年度は、ゴールドコーストの観光ビジネスをSDGs（持続可能な開発目標）の視点からより良くするためのアイデアを考えました。



TOPICS 04

講義や演習とはひと味違った
知的体験の場「六限の図書館」

学術情報センター主催の「六限の図書館」では、図書館が地域に開かれた新たな発見と出会いの場となるよう、学群を横断するテーマで、様々なゲストを招いたトークや上映、展示などを2014年から行っています。大和キャンパスのディスカバリーcommons開設後は、写真展「つぶさに見つめる-写真家・大西暢夫の仕事」（2018年度、大和・太白キャンパス図書館にて同時開催）や、データ&メディアcommonsとも連動した映画上映会「MYU Cinema Days」（2019年度）などを実施。時間割にない「六限目」では、普段の講義や演習とはひと味違う知的体験が得られます。



TOPICS 05

学生と教員がともに 研究に取り組むための (仮称) デザイン研究棟

大和キャンパスの交流棟向かいの場所に、事業構想学群価値創造デザイン学類の研究環境充実のため、開学以来初めてとなる新棟建設を進めています。この(仮称)デザイン研究棟には、価値創造デザイン学類の教員研究室15室と、学生が研究や制作を行うための「オープンスタディ」スペースを完備予定。学生と教員と一緒にデザイン研究に取り組める環境を整えます。また、インタラクティブなコンテンツ制作を行う「デザインラボ」、デジタルファブリケーション工場の「クリエイティブラボ」、ユーザーエクスペリエンスの実験を行う「行動観察室」など、専門的な研究や制作に対応するラボも設置し、2020年6月に竣工予定です。



TOPICS 06

ブラインドサッカーを通じて 仲間と支え合う大切さを学ぶ新入生交流事業

「学生同士のコミュニケーション」をテーマとした、新入生のための「コンポーゼションデイ」。春はバラスポーツであるブラインドサッカーを通じて仲間と支え合うことの大切さを、秋には地域の食に関する企業・団体を訪問し、宮城大学と地域社会との結びつきや「食へのこだわり」をそれぞれ学びました。同時開催された太白キャンパス探検ラリーの得点上位3チームには、本学坪沼農場産のお米等が贈呈されました。



TOPICS 07

働く現場で自己の適性を確かめる 宮城大学発のインターンシッププログラム

実践を通じて「働くこと」の意義や役割を学び、自己の適性を見極める学外研修「インターンシップアドバンスコース」。これは、宮城大学が宮城県内企業や自治体と協働して独自に開発したプログラムです。早期に職業観を形成し、就労への価値意識や地域社会への理解を深めることで、大学での学びの質を高めます。

TOPICS 08

食産業学群の坪沼農場が学生と 教職員らの自主活動により 「グローバル GAP 認証」を更新

食産業学群の坪沼農場は、全国の大学で3番目となる「グローバル GAP 認証」を、ネギのハウス栽培で2018年に取得。農業における「食品安全」「環境保全」「労働安全」等の持続可能性を確保した農業生産工程管理 (GAP; Good Agricultural Practice) が国際的に認証されました。2019年度は、有志学生と教職員および公社職員による「グローバル GAP クラブ」を立ち上げ、週に一度の管理状況確認や、ネギの移植・収穫作業、生物多様性調査等を実施。本審査にて無事認証が更新されました。食産業学群では、グローバル GAP 認証を通して、「食の安全」の世界基準を学び、世界で活躍する人材の育成に注力しています。



TOPICS 09

他大学、地域の病院と 連携して「協働」を学ぶ 専門職連携教育 (IPE)

専門職連携教育 (IPE: Interprofessional Education) は、チーム医療や多職種連携のために必要な能力を、共に学んで養う体験学習型のカリキュラムです。看護学群では2016年度から東北医科薬科大学病院および東北医科薬科大学薬学部と連携し、IPEを開始。他大学のみならず地域の病院と連携するIPEは本学独自の取り組みです。病院で行う臨床IPEは、臨地実習で薬学生と看護学生が同じ患者を受け持つ共通の目標を検討。合同模擬事例検討会では、両学部混合のグループを組み、支援目標と支援方法を議論します。これらの経験から、多職種連携の重要性や専門性の違いを実践的に学びます。



TOPICS 10

「クローバーウニ」の
陸上養殖実現へ向け、
3者共同研究をスタート

全国の沿岸部では、大量発生したウニにより海藻類が食べ尽くされる「磯焼け」現象が起こり、磯焼け海域では餌不足により「痩せウニ」が増加するという深刻な問題が生じています。食産業学群の西川正純教授と片山亜優助教は、これらの課題に対応するため九州大学との共同研究を開始。高品質なウニの安定生産のためにクローバーなどのマメ科植物を餌とする「クローバーウニ」を肥育する技術開発に成功しました（特許出願中）。クローバーウニの陸上養殖実現に向け、2020年1月には株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティングとの3者共同研究もスタート。今後はコスト面の検討や販路の確保等の市場調査を行う予定です。



TOPICS 13

東日本大震災で被災した
現場を歩いて保健と安全を学ぶ
養護教諭教育課程

看護学群看護学類の教育課程の一つである「養護教諭教育課程」は、看護学を基礎とした科学的思考と支援方法を学び、幼・小・中・高等学校や特別支援学校等で養護教諭として活躍するための知識や技術を修得する課程です。2019年度には、「東日本大震災から学ぶ学校保健・学校安全」をテーマに、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市立大川小学校と仙台市立荒浜小学校にてフィールドワークを実施。両地を実際に訪れたうえでグループディスカッション等を行い、教職員・子どもたちとの普段からの関係づくりや救急体制の構築など、災害発生時の養護教諭の役割等について学びました。



MYU TOPICS
【地域・産学連携の取り組み】



TOPICS 11

世界で活躍する企業から生産現場の知恵と
課題解決力を学ぶトヨタ講座

企業や団体と連携しながら社会で活躍するための知識や創造力を養う、産学連携講座。国と地域社会を支える産業の歴史や課題解決の取り組みを、企業から直接学びます。2018年度、2019年度は、トヨタ自動車東日本株式会社の本社・宮城大衡工場と本学で講座を実施。トヨタの東北進出の理由、地元企業との相互研鑽活動、開発・生産準備・生産が三位一体となった体制等、改善を重ねてきた現場の知恵と工夫を学びました。



TOPICS 12

地域連携センター主催
「東京都立大学との公開シンポジウム」

地域連携センターでは、地域社会との結びつきを重視し、本学特有の資源を地域に還元しながら産官学金が連携して研究成果を産み出すための支援を行っています。2019年11月には、地方と大都市での取組事例を共有するため東京都立大学とのシンポジウムを開催。基調講演や活動報告のほか、パネルディスカッションでは、「大学と地域との連携のあり方」について意見交換が行われ、濃密な議論が展開されました。



TOPICS 14

富谷市と事業構想学群が協働する
「富谷しんまち活性化プロジェクト」

旧宿場町という文化的・歴史的資源を活かした観光ブランドの構築を目指す「富谷しんまち活性化プロジェクト」では、事業構想学群の風見正三教授と佐々木秀之准教授がアドバイザーとして参加していることから、学生がワークショップを企画・開催。整備予定の旧醤油屋跡地に関するアンケートを実施したところ、100名以上の回答が寄せられ、その分析結果を学生たちが富谷しんまち活性化協議会で報告しました。



TOPICS 15

高校生の大学体験プログラム
「宮城大学アカデミック・インターンシップ」

授業体験や在学生との交流を通じ、大学での学びの魅力と学問の深さを知る「宮城大学アカデミック・インターンシップ」。高校2年生を対象に8月の連続2日で開催されています。2019年度は、東北地域の28の高等学校から延べ149名の高校生が参加。1日目は基盤教育科目、2日目は希望の学類プログラムを受講。参加者からは「進路を考えるいいきっかけになった」との感想も寄せられました。

TOPICS 16

漆の特性を活かした
「乾漆シート」の開発で、
伝統工芸と先端技術の融合を

事業構想学群の土岐謙次教授は、日本の伝統工芸である漆と、CAD等のデジタルデザイン技術の融合による、新たな工芸・アートワーク・デザインを研究しています。乾漆はFRP（繊維強化プラスチック）と原理的に同じでありながら、はるか千数百年も先駆けて実現された技法です。土岐教授は、乾漆の構造的・デザインの可能性に着目し、国内外の展示会などでその取り組みを発信してきました。そのなかで、職人の特別な技術がなくとも、強度や弾力性、抗菌性といった漆ならではの性能を家具や内装材に活かせる方法を模索し、「乾漆シート」の製法を開発（特願2019-230700）。漆による新しいものづくりが期待されます。



TOPICS 17

専門機関からも評価を受ける
高度な実学に基づいた
学生たちの研究成果

2019年度も学生の研究成果が学外で様々な評価されました。食産業学群菊地研究室の学生5名による、有機養液栽培での微生物の働きと病害抑制に関する研究は、園芸学会東北支部会発表賞を受賞。事業構想学群3年の千葉慎太郎さんは、宣伝会議主催の第11回販促企画コンペティションで協賛企業賞を受賞。食産業学研究科博士前期課程1年の加川響馬さん（須田研究室所属）の、発酵オカラが豚の健康性・産肉性に与える効果に関する研究は、日本畜産学会優秀学生賞を受賞。同科博士課程2年の佐々木瞳さん（金内研究室所属）が日本食品科学工学会東北支部令和元年大会で発表した、大豆中の酵素に関する研究は、若手奨励賞を受賞しました。



TOPICS 18

宇宙で植物を育てる
研究プロジェクトに
日渡祐二教授が参画

食産業学群の日渡祐二教授が、研究分担者として宇宙で植物を育てる「スペース・モス」研究プロジェクトに参画しました。日渡教授らのプロジェクトチームが準備したヒメツリガネゴケの実験サンプルは、ロケットに搭載され、ケープカナベラル空軍基地にて2019年7月に打ち上げられました。その後、国際宇宙ステーション（ISS）の「きぼう」日本実験棟で生育させ、宇宙空間における成長の様子を解析しています。コケ植物は食料を生産するうえで不可欠な作物と様々な特徴が共通するため、植物の成長や形成に対する重力の影響が明らかになれば、食料生産の改良に貢献できると期待されています。



MYU TOPICS
【教員・学生の活躍】

TOPICS 19

学生自らプレゼンテーション！
デザイン情報学科卒展をまちなかで開催

事業構想学部デザイン情報学科の空間デザインコースおよびメディアデザインコース4年生は、学生自身でテーマを設定し、4年間の集大成として卒業研究に取り組みます。その成果を社会に発信する目的で、せんだいメディアテークでは卒業制作展示会（卒展）が開催されました。卒展は大学院事業構想学研究科修士制作展との同時開催。学生のプレゼンテーションでは、ゲスト講師を交えて意見が活発に飛び交いました。



TOPICS 20

鈴木研究室制作「Rolly Rolly」が
デジタルアート展で入賞

事業構想学群の鈴木研究室の学生と鈴木優准教授が制作した、小学生向けのお絵描きゲーム「Rolly Rolly」が、2019アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKAにて、一般カテゴリー／エンターテインメント（産業応用）部門で入賞。映像を投影したホワイトボードにペンで線を描き、リングをゴールへ導くこのゲームは、遊びの中でプレイヤーに失敗や成功の要因を自発的に考察させるため、プログラミング的思考を育みます。



ホスピタリティとアメニティの究明と実現

Mission

建学の精神

快い生活環境（アメニティ）に身を置き、
心温まる人間関係（ホスピタリティ）に
囲まれていることは成熟社会に生きる万人の願いであり、
このような地域社会を実現させるために
「ホスピタリティとアメニティの究明と実現」を目指す。

この建学の精神に則り、宮城大学では、社会の要請に応えるために
関連するあらゆる学問や技術の成果を総合化する「高度な実学」
に基づく教育研究を推進することとし、次のように大学の理念を定める。

Philosophy

大学の理念

高度な実学に基づき、
豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、
グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、
学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

豊かな人間性	先人たちの考えや相手の価値観を尊重し、 知性と感性を涵養することで自らの人間性を磨いていく。
高度な専門性	関連するあらゆる学問や技術に関心を寄せ、自らの専門性を高め、 時々刻々と変化する社会にしなやかに、かつ、柔軟に対応できる力を身につける。
確かな実践力	地域に根ざし、グローバルな視点で自ら主体的に考え、 強い意志を持って実践していく。

沿革 History

平成 5 年	4 月	宮城県企画部県立大学設置準備室設置
	6 月	宮城大学創設準備委員会設置
	7 月	宮城県総合計画の戦略的プロジェクトの一つとして、県立宮城大学の整備を明示
平成 8 年	12 月	宮城大学条例制定／宮城大学設置認可
平成 9 年	4 月	宮城大学開学〔看護学部・事業構想学部〕
平成 13 年	4 月	宮城大学大学院（修士課程）設置〔看護学研究科・事業構想学研究科〕 宮城県農業短期大学 4 年制化基本構想検討委員会を設置 （宮城県農業短期大学創立は昭和 27 年）
平成 17 年	4 月	宮城大学食産業学部設置
平成 20 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔事業構想学研究科〕
平成 21 年	4 月	公立大学法人宮城大学設立 宮城大学大学院（修士課程）設置〔食産業学研究科〕
平成 22 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔看護学研究科〕
平成 25 年	4 月	宮城大学大学院（博士課程）設置〔食産業学研究科〕
平成 29 年	4 月	宮城大学学部改組により学群・学類制へ移行

時代とともに、変革し続ける学び場を。

今、世界は変化の奔流の中にあり、人々は先が見通せない
焦燥感に捉われています。振り返ってみれば、2019 年は米
国と中国の間で体制をかけた覇権争いともいべき対立に身
構えたものが、2020 年に入るやいなや新型コロナウイルス感
染症の世界的大流行が起こり、先行きに対する不透明感が
際立ってきています。この感染症がもたらす社会・経済的な困
難について、この文章を書いている時点において自信をもって
想像することは難しく、私のこのメッセージを読む人々が果たし
てどのような社会情勢に置かれているのか見極めることはできま
せん。このように社会は今、大きくかつ急速に変動しつつあり、
大学はこのように変化する社会を生き抜いていくことのできる人
材を育てていくことを社会から付託されています。
宮城大学は、開学以来、実学を尊重し、実践的な教育を行
うことを信条としてきました。その結果、社会で役立つ多くの人
材を輩出し、社会の発展に貢献をしてきました。しかし、このよ
うな社会の大きな変動を前にこれまでの教育のまま立ち止まっ
ていては時代に取り残されることになります。
このため、2017 年度から本学は大学の学びの土台となる基
盤教育の充実に取り組んできました。必修科目群「フレッシュ
マンコア」を設け、少人数によるセミナー形式の授業等を通じ
て、豊かな人間性と学び続ける力を養います。このような土台
の上に実践に基づく知識を身につけることで、社会で即戦力と
して通用し、かつ、将来にわたって環境変化に対応できる人

材となる高い能力を持つことができます。
さらに、2018 年度からは、学生の自主的な学びを促進する新
たな取り組みを開始しました。大学での学修は、教員が主導
する課程に留まらず、自ら、または教員や他の学生とともに主体
的・能動的に学ぶ姿勢が不可欠です。そのような学修をあと
押しするため、『ラーニング・コモンズ』をはじめとして、講義
や演習・実習といった課程にとられない学修の場の提供を行
っています。
また、2019 年度には、大和キャンパスでは開学以来はじめて
となる新棟の建設を開始しました。過去、日本はものづくりの力
によって国際競争を制してきたのですが、最近では、「コト消
費」、「情報経済」というバズワードに見られるように、モノの価
値が低下し、モノ、コト、情報など様々な形態の資源を総合
して価値を構築する力、すなわち様々な意味合いのデザイン
力が競争を左右する時代になり、国際競争環境に変化が生
じています。こうしたことを踏まえ、新棟は、デザイン分野の教
育研究環境を整えるものとしますが、キャンパス施設の床面積
の拡大は、ことデザインに留まらず、太白キャンパスを含めた
全学の教育研究環境の充実につながるものとなります。
これらに留まらず、2020 年も引き続き宮城大学は時代に沿
った変革に果敢に取り組むことで、若者が持つ成長に対する意
欲を引き出し、成長に導いていきます。

理事長兼学長 川上伸昭

1・2年次で学ぶ基盤教育の主要な科目群

フレッシュマンコア

[全学群共通：必修]



「フレッシュマンコア」の科目で大学での学びの基礎を築きます。

強固な知的基盤の上に専門の学修を積み上げましょう！

技法知

リテラシー

全ての基盤となる
言語スキル、数量スキル、情報スキルを
身につけます。

学問知

知識×考え方

基本的なトレーニングを通して
思考力を高めます。

実践知

実践力

「自己理解」「他者理解」を
深めながら実践力を養います。

フレッシュマンコアとは、1・2年次で学ぶ基盤教育の主要な科目群であり、
全学共通の基盤教育必修科目群です。

豊かな人生を送る上で必要な「技法知」「学問知」「実践知」を養います。

専門分野への学びに繋げていくだけに留まらず、その先を見据え、

自分の未来を切り拓いていくための指針を、

フレッシュマンコアを中核とする基盤教育を通して身につけていきます。

一人ひとりの夢の実現を。課題に臆せず立ち向かうための
知の基盤を築く「フレッシュマンコア」



基盤教育群長 川村保教授

これからの時代では、グローバル化、多文化交流、少子高齢化などの社会の変化も、人工知能 (AI) や遺伝子治療などの技術の変化も、これまで人類が経験したことがないほどの大規模かつ急速なものとなるでしょう。そのような大変革の時代の中で、一人ひとりが生き生きと活動し、それぞれの夢を実現していくためには、未知の新たな課題にも臆することなく立ち向かっていく気概と能力が必要となります。その気概と能力は既存の学問の成果を知識として修得するだけでは決して得られません。自らが問題を発見し、その解決法を探り出し、そして自らが解決のためのアクションを起こしていける態度や知識を毎日の学修の中で養うことで初めて獲得できるものなのです。そのような主体的な学びの姿勢を身に付ける場が宮城大学の「フレッシュマンコア」です。「フレッシュマンコア」では、問題の発見や理解のために必要な言語スキル・数量スキル・情報スキルなどの「技法知」、問題を正しく分析し思考するための「学問知」、そして自らが主体性を持って行動し、他者と協働することで成果を上げられるようになるための「実践知」を学びます。「フレッシュマンコア」は、時代が求めている「知の基盤」を構築することにより、一人ひとりの夢の実現を後押しします。

幅広く、そして偏りなく、多様な学びを積み重ねていきます。

4年間は長いようで、あっという間に過ぎてしまいます。4年後の成長した自分をイメージして大学生活をスタートさせることが重要です。そのためには、受験勉強とは違う大学での学びの作法を身につけることと、自分と社会を見つめることで自分の将来に見通しを持ち、自身の大学での学びの意義づけを自ら行うことが必要です。そのためにフレッシュマンコアがあります。



大学での学び入門

1年前期1単位

大学での学びでは、自らが学ぶべきことを見出す必要があります。大学での学び方、さらには生涯を通じての学び方を身につけることを目的として、学ぶことの意義を考え、学ぶために必要な学修方法や協働での学びに必要なスキルを磨きます。



宮城大学の知の体系

1年前期2単位

3つの学群での教育・研究内容とその方法論、実社会への適用を学び、宮城大学と3学群のミッションを理解していきます。その過程で、自分の学びの社会的意義を改めて考え、専門での学びを主体的に考える機会としていきます。



キャリアデザイン I

1年後期1単位

「自分は何者であり、これからどのような道を歩んでいきたいのか」を考えます。様々な分野で活躍している講師の話聞きながら自分の生き方・考え方を振り返り、自己の特性について客観的に把握するとともに、キャリア形成に対する意識を高めていきます。



社会の中で生きる

1年前期1単位

社会の基本的な仕組みを理解しながら、社会への自分の関わり方を考えます。幸福・正義などの観点から社会の構成を知り、そこでの自身の役割と責任を考えながら、良識ある公民としての自覚を養っていきます。



スタートアップ・セミナー

1年前期2単位

大学での基本的な学習スキル（読解、情報収集・整理、レポート作成）を課題解決型の演習によって身につけます。また、少人数のグループワークを行うことで、他者と協働して学びながら課題に取り組む姿勢を養います。



アカデミック・セミナー

1年後期2単位

スタートアップセミナーでの学びを基にして、深い思考と論理的に説明する方法を学びます。グループワークでは相手の意見を理解し、根拠に基づいた意見や情報を発言・発信し、グループでの課題解決力の向上をめざします。レポート作成では論理的な文章力を養います。



地域フィールドワーク

1年前期2単位

地域社会について座学を中心に学びつつ、グループ単位のフィールドワークで地域課題の発見とその解決に取り組みます。地域に関する知識やフィールドワーク手法の習得だけでなく、地域社会の将来に対する学生の使命感を涵養し、主体的な学びへと促すことも目的の一つです。

1. 講義

初回講義では、フィールドワークの位置づけや意義を確認し、訪問時の心構えやマナー等のリテラシーを修得します。

2. グループ演習

事前にヒアリングの練習を実施したうえで、グループ単位で各訪問先を訪れ、ヒアリングとフィールドワークを実施します。

3. フィールドワーク

グループに分かれて、訪問先の方から地域の特徴や見所を解説していただくなど、地域に関する知識や理解を深めます。

4. グループ演習／発表

フィールドワークの背景、目的、調査結果、分析をまとめた成果物を作成し、学生相互に発表して意見交換を行います。



Student Voice

専門科目を深く学ぶための基盤教育

基盤教育では、知識そのものより、考え方（論理的思考）を学んだという印象です。具体的には、日本史、哲学、憲法などや、数学概論、数理学、生命科学、また、美術や言語表現などを学んできました。こうした講義の先生方は全員、丁寧に質問に対応していただき、主体的に学ぶ姿勢が養われたように思います。知り、学び、考え、質問をして、また学び、考えていく。基盤教育では、幅広い分野を学ぶことができ、学んだ知を実践する環境が充実しているため、ここで真面目に学ぶことが、これから進む専門科目での深い学びにつながるのではと感じています。

有川周志さん(事業構想学群) 茨城県 江戸川学園取手高校出身



Student Voice

学ぶだけでなく「自分にできること」を考える

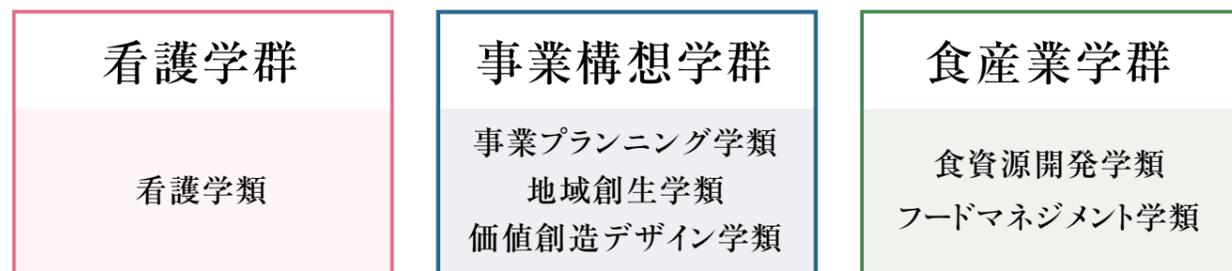
地域フィールドワークでは、対象となる地域に足を運ぶことで、座学だけでは得ることのできない情報を五感を使って得ることができました。私は東日本大震災の被害を受けた地域を訪問しましたが、ただ「学ぶ」から、「自分たちにできることは何か」といった視点を持つことができるようになりました。1年生の基盤教育では、「答えのない問いに取り組む」という、大学での学びの土台作りに取り組みました。特に、課題を自分で設定することは当初難しく感じましたが、学んだ思考方法や、情報の集め方などを活かし、2年次以降はさらに深い課題に取り組んでいきたいです。

武山弥琴さん(事業構想学群) 宮城県泉館山高校出身

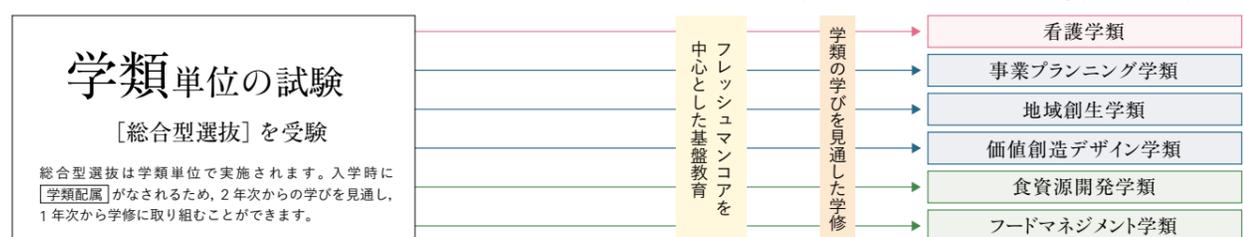
学群・学類での学び

宮城大学では、2017年度入学より、学群・学類制による新たな教育を展開しています。このことにより、学類の垣根を越えてバリエーション豊かな専門教育が受けられるようになりました。また、入学者の募集単位も「学群単位」「学類単位」の2つを設定しています。

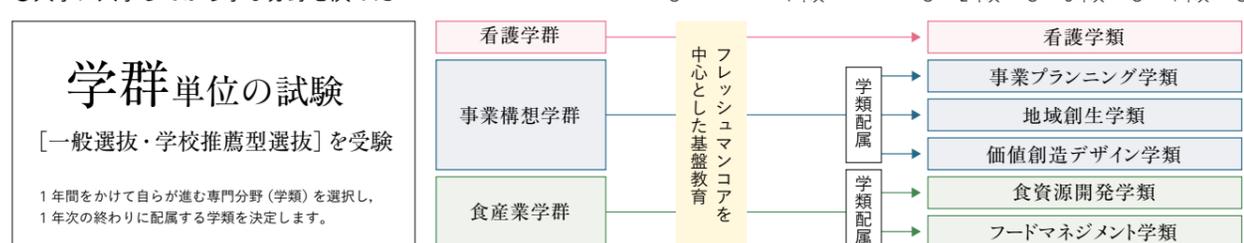
一般選抜と学校推薦型選抜は、「学群単位」の募集となりますので、事業構想学群と食産業学群の学生は、入学後1年間をかけてじっくりと自らが進む専門分野(学類)を選択し、1年次の終わりに配属する学類を決定します。(看護学群は1学類のため、全員が看護学類で学ぶこととなります。)



●大学に入学する前に学びたい分野が決まっている



●大学に入学してから学ぶ分野を決めたい



※看護学群は1学類のため、全員が看護学類で学ぶこととなります。

学類配属について (一般選抜・学校推薦型選抜で入学された方)

所属学群ごとに、学生一人ひとりが自分としっかり向き合いながら、担当教員と一緒に1年かけて考えていきます。1年次の学修成果(1年次の成績や希望学類に関するレポート、面接等を予定)による選考を行い、学類配属を決定していきます。

オリエンテーション [4月]	学群・学類による4年間の学びを見直し、学類配属にかかるスケジュールや手続き等について説明します。	予備調査・面談 [4~1月]	希望学類についての予備調査を複数回実施します。予備調査の結果等を踏まえ、担当教員と面談を重ねながら、それぞれの興味や関心に合った専門分野(学類)についての理解を深めていきます。
学類配属ガイダンス [10月]	前期試験の成績発表を受けて、学類配属についてのガイダンスを実施します。	希望学類の届出・学類配属の決定 [2~3月]	後期試験の成績発表後、2月から3月にかけて希望学類の届出を行います。選考の結果、最終的な学類配属は3月末に決定します。

※スケジュール等は変更になる場合があります。

看護学群

看護学類 入学定員95名

入学者に求める能力

- 1) 人や地域社会、看護に関心を持っている人
- 2) 人の喜び、苦しみを分かち合える温かい思いやりを持ち、人との関係を大切にできる人
- 3) 科学的探究心を持ち、主体的かつ柔軟な発想で取り組むことができる人
- 4) 国の内外を問わず、看護学を通して地域社会に貢献しようと思っている人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

看護学群は、生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考とマネジメント能力を持ち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域の人々、多分野・異文化の人々と協働して学際的に活躍できる人材育成を目指しています。

めざせる資格・免許等

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格(選択)
- 養護教諭一種免許状(選択)

卒業時に取得できる資格・免許は、「看護師国家試験受験資格」が全員、保健師教育課程を選択した学生は「保健師国家試験受験資格」、養護教諭教育課程を選択した学生は「養護教諭一種免許状」を取得できます。

人間力を基盤に、新たな時代の看護を創造し、実践できる看護専門職を目指す

今、社会は大きく変化しています。医療においても、遺伝子や人工知能技術の利用等、想像の世界を超え、現実として利用される時代が到来しています。このような中で、看護専門職は、何を行っていくのでしょうか。看護には、4つの基本的責任があるとされています。それは、健康を増進し、疾病を予防し、健康を回復し、苦痛を緩和することです。健康を求める看護のニーズはあらゆる人々に普遍的

です。看護専門職には、ニーズに対応できる時代に応じた知識、対象の状況を理解しようとする共感性や柔軟性、必要な看護を考える創造力、関係者と協働しながら展開できる推進力が求められます。本学では、地域フィールドワークや看護学実習等の科目で、様々な人と対話しながら、看護専門職の基盤となる人間力を培います。新たな時代の看護を創造し、実践できる看護職を共に目指しましょう。



看護学群 学群長
高橋和子教授

看護学類

看護学の基盤となる知識・技術を身につける「専門基礎科目」と、看護学の専門性を深め、広げる「専門科目」を学年進行に沿って体系的に配置しています。

国際看護プログラム

グローバルな看護職を目指す学生のためのプログラムです。学生が各自ポートフォリオを作成しながら、所定の英語科目と看護専門科目により4年間学修が続きます。「実践看護英語演習」では、海外の大学の看護プログラムや医療機関で2週間の研修や学生交流を行います。国際交流を通じて看護学の面白さをさらに実感できます。

災害看護プログラム

災害サイクル各期において支援ができる看護職を目指す学生が、災害看護の基礎知識と技術を身につけるためのプログラムです。学生は学修を進めるにあたり、1年次から学修の振り返りができるポートフォリオを作成しながら、指定された科目を学びます。また、その学びを活かした災害看護関連のボランティア活動を行うことでさらに深い学びが可能です。

看護学群のキャリア支援

学生一人ひとりの自己実現のために、そして看護職として自律した社会人となるようキャリア支援を行っています。

卒業後の進路

- 病院や施設・地域で働く看護師
- 自治体や企業の保健師
- 小・中・高・特別支援学校の養護教諭
- 大学院や助産師養成校への進学

キャリア教育

4年次に学生自身が進路決定できるように、1年次からキャリア開発教育を通して学修します。具体的には、1年次から3年次まで行われる「キャリアガイダンス」、「医療機関等研究セミナー」、「公務員セミナー」、「養護教諭セミナー」を開催します。その中で個々の学生が、自らの適性を考え職業の選択ができる能力を育成します。

就職・進学相談

4年次はキャリア開発担当教員により、学生が希望する進路について「個別相談」を計画的に行います。また、キャリア開発室の進路指導員による就職試験に向けたエントリーシート作成支援や面接対策など、きめ細かな支援を行います。

国家試験対策

「看護師」「保健師」の資格は、国家試験の合格をもって得られる資格です。4年次には、定期的に模擬試験とその解説会を行い、学びを定着させます。また、国家試験直前対策として教員による学習会を行うなど、合格に向けてのサポート体制を構築しています。

看護学類



Nursing with a look to the future.

看護専門職としての基礎能力を身につけながら、

同時に看護に大切な“豊かな人間性”と“高い倫理観”を育み、

あらゆる看護フィールドで活躍できる人材へ。

人の多様性を知って看護実践する力をつけよう

病院、在宅、地域、学校、企業等の多くの場で、看護が求められています。様々な場には、乳幼児、学童、青年、社会人、高齢者と年代の異なる人々がいます。看護学は、人のすべての年代の特徴を知り、体を知り、心を知り、社会や環境との関係における健康を知って、活動する学問です。看護学群4年間では、多様な場、多様な人々の健康を考え、援助を経験し、看護を必要とする人と共に歩む基礎能

力を身につけます。1年次の講義・フィールドワークを通じて養う、広い視野で人や環境を見つめる力と、学生自身が自己成長する力が、看護専門能力を高める土台となります。2~4年次での学修で重要なことは、看護の専門知識を蓄えること、看護を実践する力を持つこと、看護の専門性を追求することです。今後の多様な社会に対応し、成長し続ける看護専門職を目指していきましょう。



看護学群 副学群長
菅原よしえ教授

看護職として社会で活躍できるように、キャリア形成の基盤を総合的にサポート



看護の基本的な技術を学修するためのナースिंग・ラボ



看護学類 八木美祐さん
秋田県立横手高校出身

Student Voice

クラスでの討論を通して「相手を受け入れる力」を学ぶ

宮城大学にはクラスごとに分かれて行う少人数の授業があり、テーマに沿って討論する機会もあります。そこでは、自分の意見を述べる力だけでなく、相手の意見を引き出す力や相手を受け入れる力などの総合的な力を身につけることができます。看護職はコミュニケーションを大切にしている仕事なので、ここで実践的に学んだことは、今後も役に立つと感じています。また、クラ

スは担任制なので、悩んだ時はすぐに担任の先生に相談できることも心の支えになりました。私は「災害看護プログラム」で災害時における看護職の役割、処置や対応法を学んでいます。日本は災害が多く、災害時の看護職の対応が重視されていますが、大学でこうしたプログラムが学べるのも、被災した宮城県の大学だからこそだと思います。



看護師国家試験合格率 **98.9%**
(第109回: 全国平均 94.7%)

看護師国家試験受験資格

看護師国家試験を受験することができる資格です。国家試験に合格することで看護師として働くことができます。看護師は医療の第一線で活躍しており、ときには患者の精神的支えになるなど、病院内での役割は大きい仕事です。高齢社会に向けて、ますます需要は高まっています。

保健師国家試験合格率 **100%**
(第106回: 全国平均 96.3%)

保健師国家試験受験資格

保健師国家試験を受験することができる資格です。国家試験に合格することで保健師として働くことができます。健康に関する相談を受けたり、指導や健康診断を行うなど、主に病気予防に関わる活動に従事しており、健康・保健知識の啓蒙活動を通じて、住民の生活向上を図る重要な役割を果たしています。

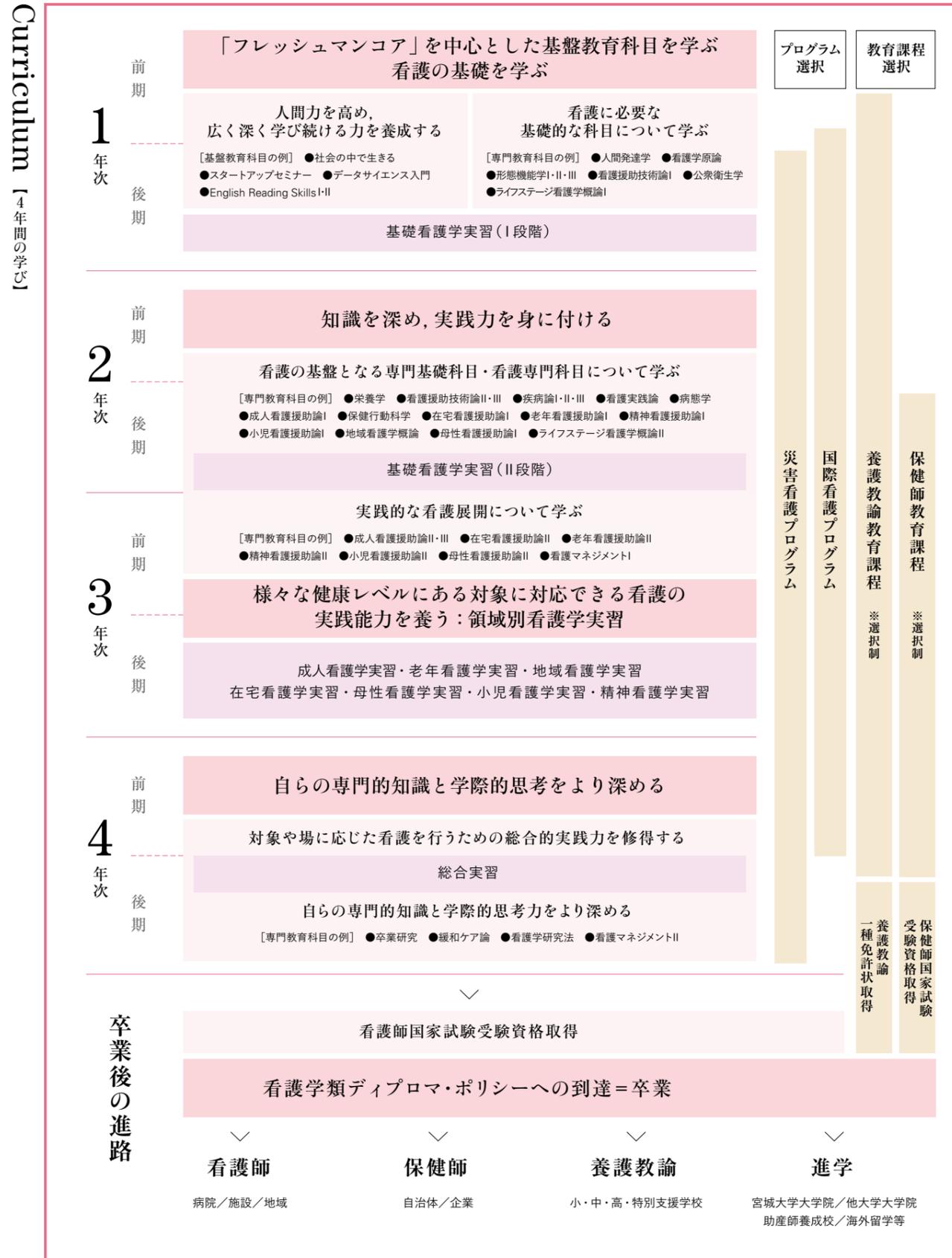


養護教諭一種免許状

小・中・高等学校・特別支援学校において、児童・生徒の心身の健康管理を行うと同時に、学校の保健教育の担い手にもなっています。いわゆる「保健室の先生」です。

※保健師国家試験受験資格と養護教諭一種免許状は選択制です。いずれか一方を選択できます。

看護学類:4年間の学び



社会で活躍する卒業生

地域での暮らしを含む看護の
学びが医療現場で助けになる

東北大学病院小児科/看護師
磯部春香さん(2016年3月卒業)

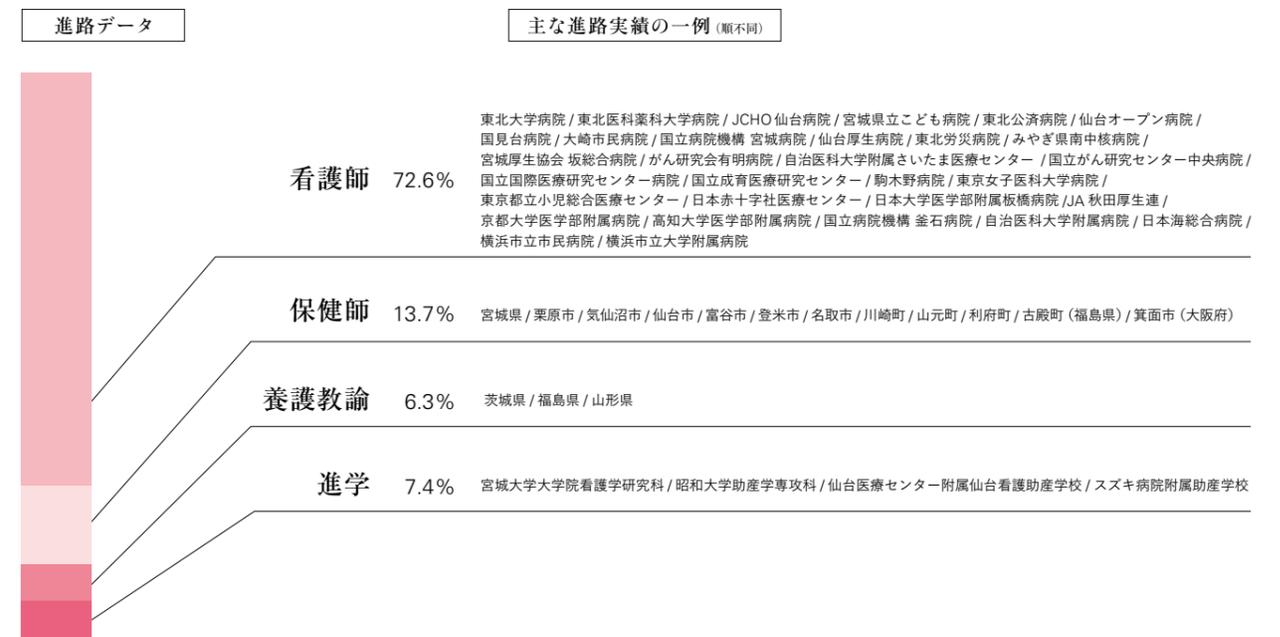
小児科病棟で看護師として勤務しており、5年目になります。子どもたちは病気を抱える中でも成長・発達しています。寝返りがうてるようになったり、歩けるようになったり、話す言葉が増えたりすることをご家族と一緒に喜ぶときにとてもやりがいを感じます。もともと地元の医療に貢献したい思いが強く、県内の病院に就職する卒業生の多い宮城大学を選びました。宮城大学は様々な施設で実習ができることが魅力でしたが、受け入れ施設が多いのは、歴代の宮城大生や就職した先輩方の熱心な姿勢のおかげだと思います。また、宮城大学には保健師国家試験受験資格を得るためのカリキュラムがあり、疾病予防や健康増進、社会資源など、病院内に限らず地域での暮らしにまで視野を広げた学修ができました。退院後の生活を見据えた看護という点で、学びが役立っています。



Graduates [卒業生の活躍]

看護学類

進路データ



進路データは、2020年3月19日現在 小数点以下第2位を四捨五入 看護学科の実績を掲載

MYU SUPPORT FOR STUDENTS #1

学生のみなさんが安心して大学生活を送ることができるよう、様々なサポート体制を用意しています。

入試に関する気になること・わからないこと、いつでもご相談ください。



適切かつ円滑な入学者選抜を目指して。 アドミッションセンター



アドミッションセンターは2017年4月に宮城大学における入試改革に関する事業を推進する目的で設置されました。当センターは、本学のアドミッションポリシーに即した入学者を適切に確保するために、入学者選抜の基本方針の策定、入学者選抜に関する調査研究および入試分析、入試に関する広報活動および相談、入学者選抜の円滑な実施に関する総括を行い、本学の教育研究の充実発展に寄与することを目的としています。

日々の大学生活や学修、健康面など、気軽にご相談ください。



あらゆる面から学生を親身にサポート。 スチューデントサービスセンター



スチューデントサービスセンターは、学生のみなさんの大学生活を支援するセンターです。学修についての支援はもちろん、サークル活動の支援やアルバイトなど大学外での生活についての支援も行っています。大学生として一人ひとりが自主的・積極的に大学生活を送っていくことを支援するセンターです。学生のみなさんの自主的な利用が基本ですが、出席や成績状況などから個別に面談を行うこともあります。



ココロとカラダの両面をサポート。 健康支援室



学生が安心して充実した大学生活を送ることができるように、健康面からサポートしており、大和キャンパス・太白キャンパスの教員・保健指導員・カウンセラーが所属しています。体と心の健康についての疑問や悩みなどがありましたら、一人で抱え込まずに、健康支援室(保健室・学生相談室)へ気軽に相談にいらしてください。相談内容の秘密は守ります。スタッフ一同、学生のみなさんの力になれるよう、共に考えていきたいと思っています。
※障がいや有する学生や禁煙に関するサポートもしています。

事業構想学群

- 事業プランニング学類 入学定員 60名
- 地域創生学類 入学定員 60名
- 価値創造デザイン学類 入学定員 80名

入学者に求める能力

- 地域社会の動向や時代の流れに興味を抱き、自ら問題を発掘し、論理的に考え、表現することを学ぶための基礎的な学力を有する人
- 大学での勉学に対する強い意欲を持ち、高度な知識とスキルを身につけることによって地域社会に貢献することを目指す人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

事業構想学群では、現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的に捉え、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政、社会の各分野で先導的役割を担える人材の育成を目指しています。

めざせる資格・免許等

- 簿記検定 ●公認会計士 ●税理士
- 技術士 ●防災士 ●中小企業診断士
- ITパスポート試験 ●WEBデザイナー
- 建築士 ●インテリアプランナー

社会保険労務士/司法書士/宅地建物取引士/総合旅行業務取扱管理者/基本(応用)情報技術者/統計検定/銀行業務検定/色彩検定/マルチメディア検定/CGクリエイター/CGエンジニア/画像処理エンジニア/福祉住環境コーディネーター/認定ファシリティマネージャー等
※めざせる資格は学類ごとに異なります。

地域の社会・文化に立脚し、世界に繋がる人材育成を目指す「知の拠点」

事業構想学群は、これまでの長い歴史の中で受け継ぎ発展させてきた生活や社会、文化や環境を守り育(はぐく)み、それらを未来に譲り渡していくための様々な活動(Project)を、新たな挑戦や意欲的な創意工夫とともに構築(Design)し、多様な実践とともに学ぶことができる学群です。この学群には3つの学類があります。魅力的な人生を支えていくための生業(なりわい)の創出を推進する「事業プランニング」、賑わいと愛情に溢れた地域社会の創

生を思考する「地域創生」、そして世界の本質を探究し、叡智を結集させたものづくりを学ぶ「価値創造デザイン」。ここで学ぶ学生さんたちには、学年が進むにつれそれぞれの専門分野に特化した研究・学修を深めていく機会が与えられますが、相互横断的に他の分野の知見を自らの就学の糧として身につけながら行動力のある臨機応変な未来人として成長していけるよう、最善を尽くしていきたいと思



事業構想学群 学群長
中田千彦教授

事業プランニング学類

入学者に求める能力

実行可能な計画をまとめ上げることに強い関心を持ち、その際に必要となる、情報・データの読解、論理的な思考や表現の方法を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

現実の社会で顕在化している諸問題を分析し、新たなビジネスモデルの構築と運営できる能力(事業プランニング力)を育成します。

地域創生学類

入学者に求める能力

地域社会で顕在化している諸問題を分析してその解決策を自ら考えることや、地域社会の基盤となるまちづくりや防滅災に関する理論と技術を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

現実の社会で顕在化している諸問題を分析し、地域資源も活用することで新たな地域を創生する能力(地域創生力)を育成します。

価値創造デザイン学類

入学者に求める能力

人間感性や地域風土に根ざしたデザイン原理や、人々の生活の場である建築・街・インテリアなどの空間や環境をデザインする理論と技術を学ぶための基礎学力を有する人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

人間の感性や地域の資源に応じた新しい価値を創造できるサービス・生活環境・製品(ものづくり)を探究創造する能力(価値創造デザイン力)を育成します。

事業プランニング学類



事業創出に向けて専門領域を深める2つのコース



学びの紹介《事業戦略コース分野》

新しい価値を社会に創出する事業は、市場の潮流や消費者ニーズを捉え、かつ独自性と新規性がなければなりません。事業戦略コースでは、新たな事業を生み出すために必要なスキルを学ぶ「マーケティング」や「eビジネス」、またそれを持続可能なものにするために必要な「経営戦略」など、実社会でも役立つ理論を学ぶと共に、演習科目を通してその計画力・実践力を身につけていきます。

学びの紹介《事業管理コース分野》

企業(事業)価値を向上させるための理論と技術を学びます。経営環境が大きく変化する中で求められるのは、理論や原則を踏まえつつ、変化に適應できる事業管理能力です。事業管理コースでは、会計・法務・CSRなどの事業基盤となる知識・技術とともに、幅広い視野から社会経済環境の変化を把握し、それを戦略構築に活かすために必要な組織のマネジメント・人的資源管理・財務戦略・経営情報管理などの実践的な学習機会を提供します。

Making business innovations happen.

時代が大きく変化しニーズが多様化する現代社会において、成功している企業はどのような戦略をとり、どのように組織を動かしてビジネスを行っているのか。

様々な事例を通し、その論理と思考を基にした実践知を身につける。

新しいビジネス価値創造をプランニングできる人材の育成

国際化、高度情報化社会の進展は、留まることを知りません。ビジネス現場は、これまでに経験したことのない新たな変革への対応を迫られ続けています。

事業プランニング学類では、時代に求められる事業プランニングのできる人材育成のため、実践的な調査・分析手法と学術的な論理的思考を修得するとともに、新規性・独自性の高いビジネスモデルなどの事例を研究し、構想力を高めるような教育をしています。新たな時代を切り拓くビジネスリーダーとして、計画・実践力のある人材輩出を目指しています。



事業プランニング学類 学類長
金子浩一教授

Student Voice



橋本悠依奈さん
宮城県仙台第三高校出身

「知識 × 実践」を通じて、リーダーシップ能力を磨く

ゼミでは「デジタル経営学」を軸に、地元企業と協力して観光マーケティングや地域活性化のプロジェクトに複数取り組みました。講義で得た知識をプロジェクトで応用して学びを深め、学内外の方とチームを組んでリーダーシップ能力を磨くなど、たくさんの貴重な経験ができました。

主な学べる分野

経営財務・金融／経営学・組織論／
経営戦略／法学／経済学／
マーケティング／社会システム／
社会調査／eビジネス／会計学



大嶋研究室

デジタル経営学とリーダーシップ

AI時代に必須の実践経営学を学び、産学連携プロジェクトで戦略立案やマーケティングを実行しながら、リーダーシップ能力を磨きます。観光促進活動にも力を入れています。



田邊研究室

実践を通じ金融の学びを深める

金融経済の基礎理論をベースに、企業への訪問、模擬株式売買などを通じて実体経済を学びます。行動経済学の実験、研究成果の電子書籍での出版などにも取り組んでいます。

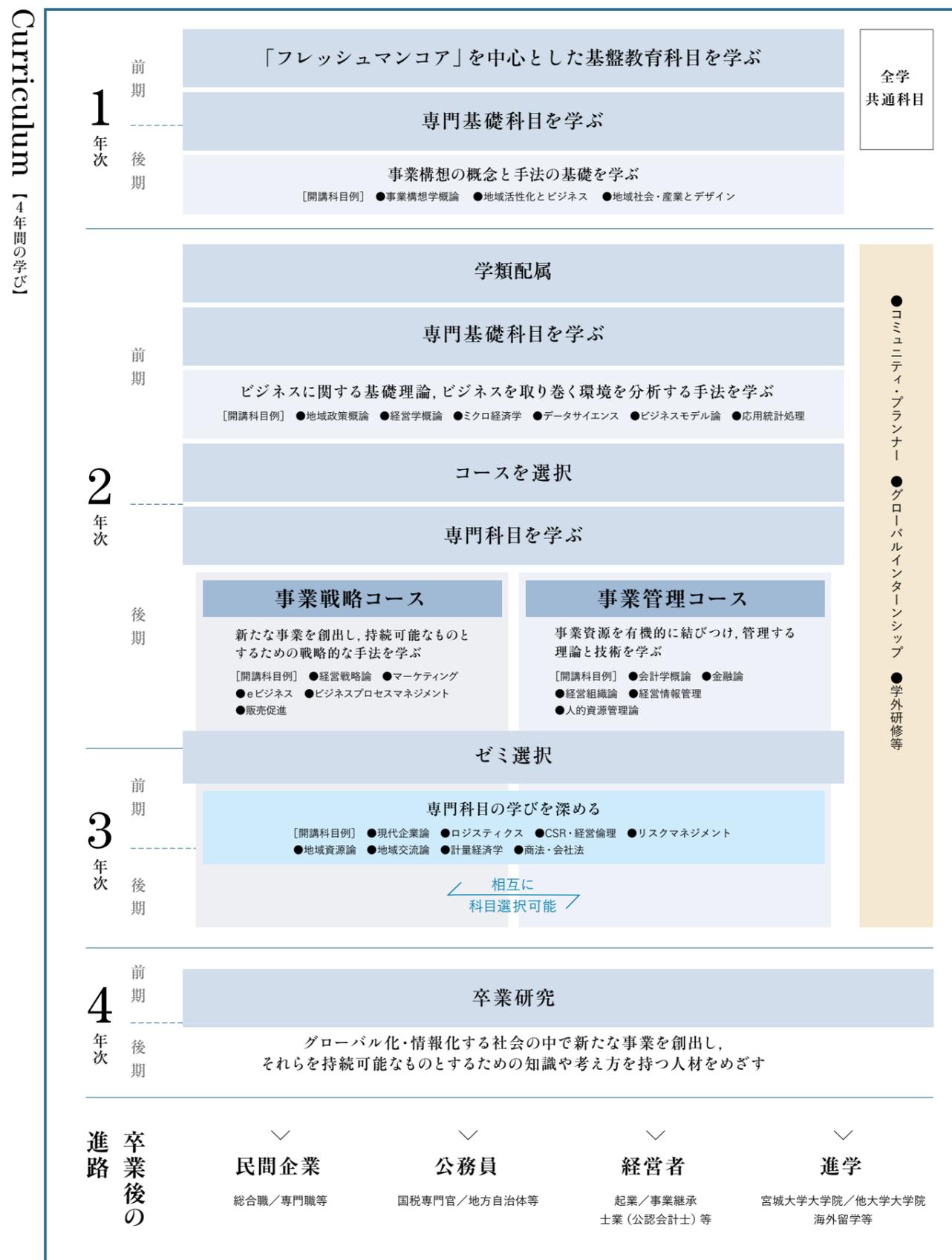


徳永研究室

実社会のシステム効率化を考える

自治体バスや介護事業など、実社会における事業を対象に、利用者のニーズ分析に基づいたサービス提供方策や限られた資源制約の下での効率的運営について考え、提案します。

事業プランニング学類：4年間の学び



社会で活躍する卒業生

法的トラブルを未然に防ぎ、
組織の成長をサポートする

一京綜合法律事務所 / 代表弁護士
石橋京士さん (2006年3月卒業)

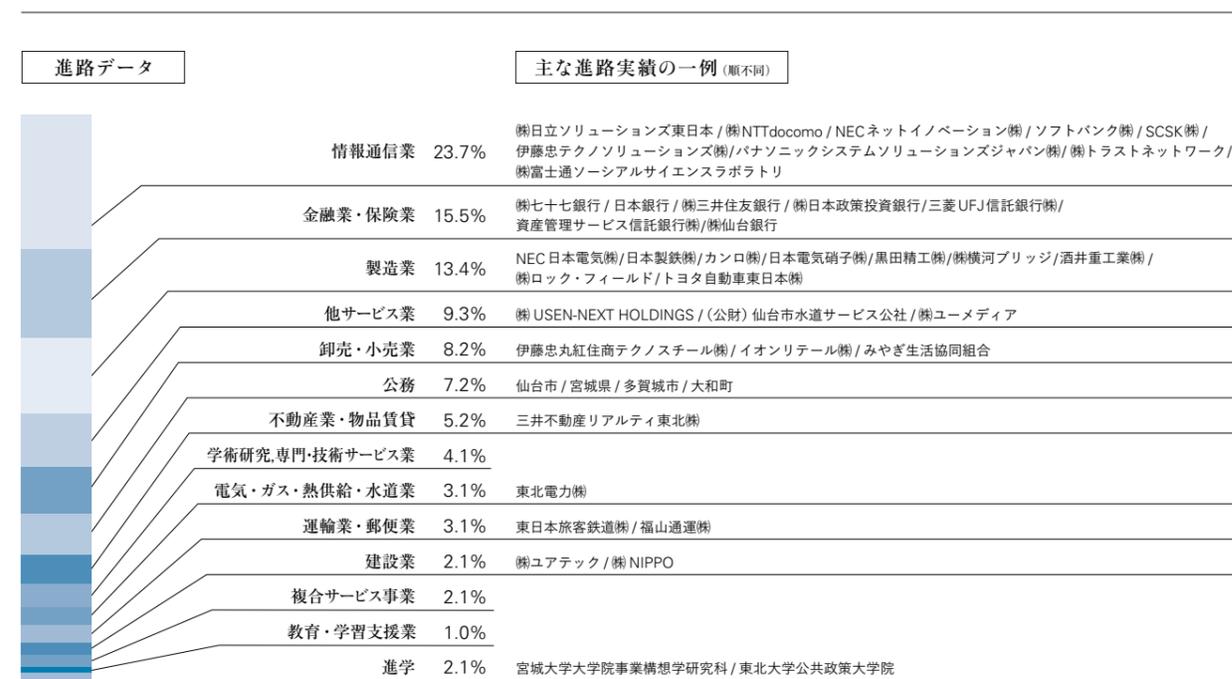
宮城大学の先生方は、教員というより会社の上司のような方が多く、良くも悪くも実社会に近い学び・経験を積むことができました。周りの学生も学外活動に積極的に取り組む人が多く、刺激が多かったです。2016年に現法律事務所を開所し、現在は法律顧問をはじめ、新規事業及び事業経営に関する法律相談から、契約書などの書面作成及びチェック、契約交渉、紛争発生時の示談交渉、訴訟代理人業務などを行っています。提供するアドバイスには、法的観点に加え事業経営の視点を伴うのが特色です。これまで扱った事業紛争案件の9割は事前に防ぐことが可能なもので、法的トラブルが相談者の事業、組織の成長スピードを遅らせる場面にも何度か遭遇してきました。お金、時間、精神的負担のかかる紛争、訴訟を予防し、事業、組織の成長発展のサポートに全精力を注ぎたいと思います。



Graduates [卒業生の活躍]

事業プランニング学類

進路データ



進路データは、2020年3月19日現在 小数点以下第2位を四捨五入 事業計画学科の実績を掲載

地域創生学類



フィールドワークを通して、地域課題の解決をより実践的に学ぶ

風見研究室

大震災を越えて、持続可能な地域を創造する

「都市の時代」と言われる 20 世紀は、大都市に集中した経済力が国を牽引してきましたが、21 世紀は「地域の時代」であり、地域資源を有機的に循環させ、持続可能な社会を創造することが求められます。東北は大震災を越えて、新たな社会を構築するトップランナーとして期待を集めています。こうした東北復興の鍵となるものが、「コミュニティ」の再生です。風見研究室では、東松島市の「森の学校プロジェクト」をはじめ、実際に「コミュニティ」に入りながら、専門家や地域の人々と持続可能なまちづくりの理論や実践を学びます。地域の自立や個人の幸福を追求するまちづくりの研究・実践を進めるとともに、コミュニティデザイン、コミュニティビジネスなどの手法を学んでいきます。



MYU labs 研究室紹介

千葉研究室

農業と農村を次世代に繋ぐことを技術で支える

農業と農村は地方の宝です。しかし、人口減少、高齢化の進行、耕作放棄地の増加、自然災害の発生など、農業と農村をとりまく状況は厳しく、次世代に繋いでいくことが難しくなっています。千葉研究室では、「農地の改良」「被災農地の早期復旧」という視点からこれらの課題に取り組んでいます。県内各地で各種センサーや定点カメラなどを用いて、農地の土壌環境や作物の生育状況などの観測を行っています。この写真も調査用の定点カメラで調査風景を撮ったものです。



地域創生学類

Creating sustainable society.

災害や人口減少を始め、社会課題をいかに自分事として解決していくか。

社会課題解決に寄与する事業創造や地域政策、それらの根拠を導く科学的分析手法を学び、

ソーシャル・イノベーションをもたらす原動力となり、社会に貢献する人材を育てる。



阿部仁美さん
岩手県立釜石高校出身

Student Voice

同じ目標をもつ仲間と、実践的に学ぶ喜び

地域創生学類では、人口減少などの地域課題を解決していくプロセスを、理論と実践を交えて学ぶことができます。公共政策フォーラムなどへの参加を通して、同じ熱量で同じ目標を目指す仲間がいることや、フィールドワークやヒアリングを積み重ねるなかで学べる魅力を実感しました。



地域社会学

課題を原理・原則から考える

地域社会の課題を「原理・原則から考える」ことの重要性と、開かれた関係性の中で「他者と共に生きる」ことの意義と必要性を理解できるようになることを目指します。



地理情報分析

地理情報を自由に操る

衛星画像や市町村等が整備した位置情報を持つデータを地理情報と呼びます。地理情報の扱い方や分析手法を学び、地域を客観的に把握・評価する技術を修得します。



国土・地域計画

国土形成のロジックを理解する

今の国土の姿は、様々な制約要因を克服し、先人が大きなビジョンでつくり上げてきたものです。未来の地域を構想するには、その形成のロジックと形成過程の理解が必要です。

Classes 授業紹介

地域創生のためのプロジェクト・デザイン

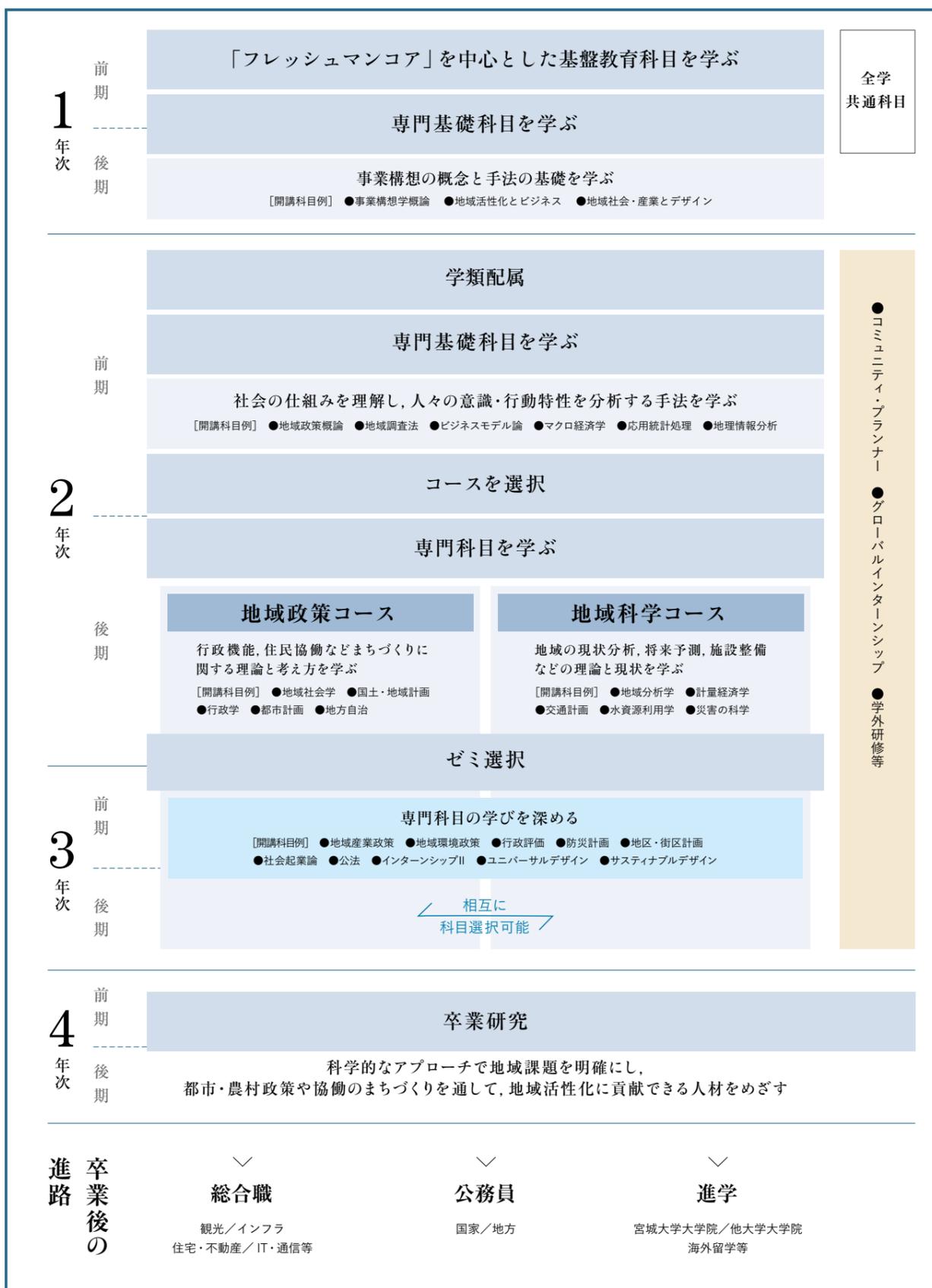
できることならば、世界の課題をビジネスや政策で次々と解決し、社会を豊かで持続的なものにしたと思うでしょう。しかし、一歩踏み出すと、直面している問題と原因の関係の複雑さや、人々の考え方や生き方の多様さに衝撃を受けます。地域創生学類では「人・社会・環境」をテーマに、問題解決のための政策やビジネス、プロジェクトについて学び、体験し、地域の創造的発展を探究しま

す。問題を的確に捉え、先を見据え、解決策を提示する高度な能力が求められます。そのために、物事や事象を分解して捉えられる知識とスキルを養います。同時に、向き合いたい地域やモノ・コトに出会い、対話し、実践し、失敗し、また学びましょう。ソーシャル・アントレプレナーシップを培い、共に地域創生に挑むプロジェクトもデザインして、みなさんをお待ちしています。



地域創生学類 学類長
石田祐准教授

地域創生学類：4年間の学び



社会で活躍する卒業生

電気事業で地域の経済基盤と持続可能性に貢献する

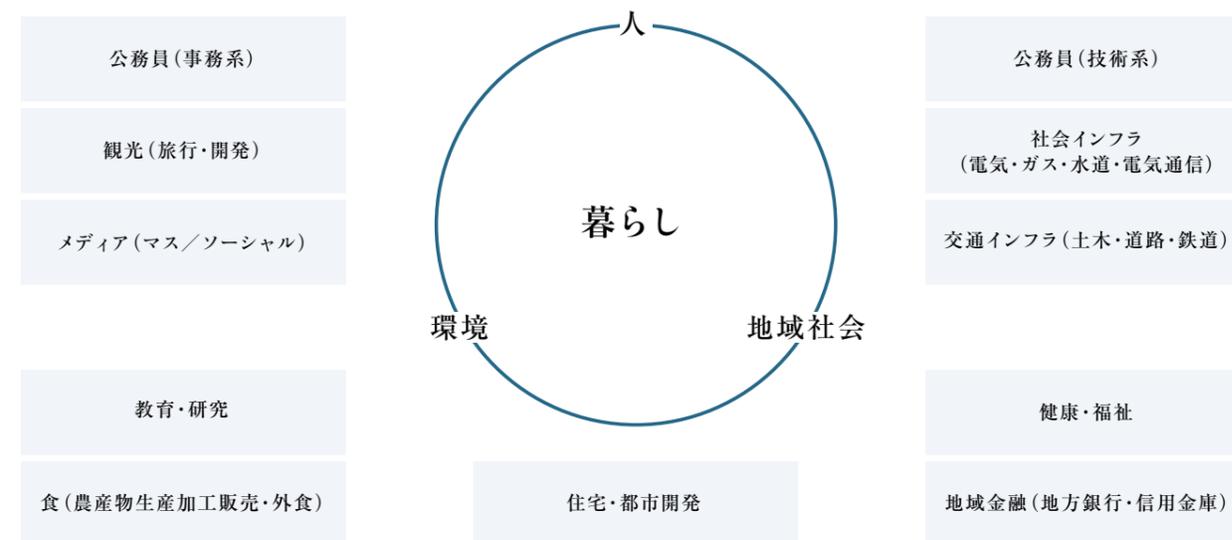
東北電力株式会社 山形電力センター
佐藤英哉さん(2018年3月卒業)

私は検針担当として、一般家庭や商業施設・工場等に設置されている電気メーターの指針を毎月計量する業務を担っています。大学のゼミで経済学を学び、「地域を豊かにするためには経済力の強さが必要」ということを実感し、経済の基盤を支える電気事業を行う今の会社を志望しました。宮城大学は少人数制が魅力です。先生との距離が近く、明確な学修意欲をもった学生が多い。学ぶ環境や事務局の体制が十分に整っていて、学生のやる気を全力でサポートしてくれます。大学4年間で一番の学びは、「物事を多角的な視点で捉える」ということ。再生可能エネルギー事業の拡大など、「持続可能な地域の発展」は常に重要なテーマであり、環境問題を見据えながら今後も大好きな東北・新潟のために貢献したいと考えています。



地域創生学類の進路イメージ

地域創生学類では、地域のコミュニティをマネジメントし、課題を解決しながら持続可能な地域の発展を考えていけるプランナー、閉塞する地域を突破していける人材の育成(自治体・企業等への輩出)を目指します。



価値創造デザイン学類



基礎理論からつくる技術、そして価値を生み出す実践力まで幅広く養う

1. 価値創造デザイン演習 I

デジタルデザインの発想を具体化するグラフィックデザインの基本を修得し、実際の制作からプログラミング表現を学びます。

2. 感性情報デザイン演習 III

ユーザーを意識した体験のデザインインタラクティブ作品制作と展示会企画を通じてデザインを統合的・実践的に学びます。

3. 造形・プロダクトデザイン演習 I

パラメトリックデザイン手法で椅子制作宮城県登米町産の杉材を用いて、CNC加工機を駆使し、木製椅子を制作します。

4. 生活環境デザイン演習

実践で学ぶ、生活環境デザイン生活環境に新たな価値をもたらす都市空間等の構想プロセス・理論を学びます。



Classes [授業紹介]

価値創造デザイン学類

Creating “new value & design” for the society.

情報・環境デザインを通して、新しい価値をどう生み出していか。

日々変化する社会環境を観察し、デザインが担う役割を学びながら、

多様な課題を解決へと導く論理的思考力と表現力を身につける。

デザインの学びは実践にあり

中国の古典『韓非子』に「三人言いて虎を成す」という言葉があります。街に虎が出たという信じがたい話も、三人が口を揃えると本当のこととして伝わってしまう、伝聞を鵜呑みにすることを戒める言葉です。玉石混淆の情報に溢れた現代社会にこそ強く響く言葉だと思います。物事の本質を見極める方法は今も昔も変わりません。それは自分自身の知恵を使って考え、体験を通して感じるこ

とに他なりません。現代では情報技術によって「知恵」は広く共有できるようになりました。一方で、肉体的な体験はまだ一人ひとりの実際の経験に根ざしています。デザインの学びには、この知恵を体験として感じる、つまり実践が非常に大切です。自分で考え、それをカタチにしていける力が物事の本質を見抜く能力となり、本当の自由を手にする礎になるのです。



価値創造デザイン学類 学類長 土岐謙次教授

Student Voice



高橋 璃歩さん
秋田県立湯沢翔北高校出身

建築設計へとつながるデザイン演習の学び

設計演習は少人数での授業のため、先生との距離が近く、積極的に相談することができました。また、デザイン演習の講義で様々なグラフィックソフトを使ってスキルを身につけた経験は、現在の生活環境デザインコースで設計した建築のプレゼン資料を作成する際にも役立っています。

制作設備・施設一覧

製図や模型製作が行える製図室／高性能 PC が整ったデザインラボ／レーザーカッターや 3D プリンタといったデジタルファブリケーション機器を備えた材料実験室／演習ではクリエイター向けソフト「Adobe Creative Cloud」や CAD が利用可能



茅原研究室

人と社会を「知る」ために

デザインの基礎となる人と社会のトータルな理解に向けて、ヒトの知覚・認知・身体の特長やメカニズムから、ユーザビリティ、地域の伝統文化・芸能まで、心理学を中心とした多様なアプローチで取り組んでいます。



中田研究室

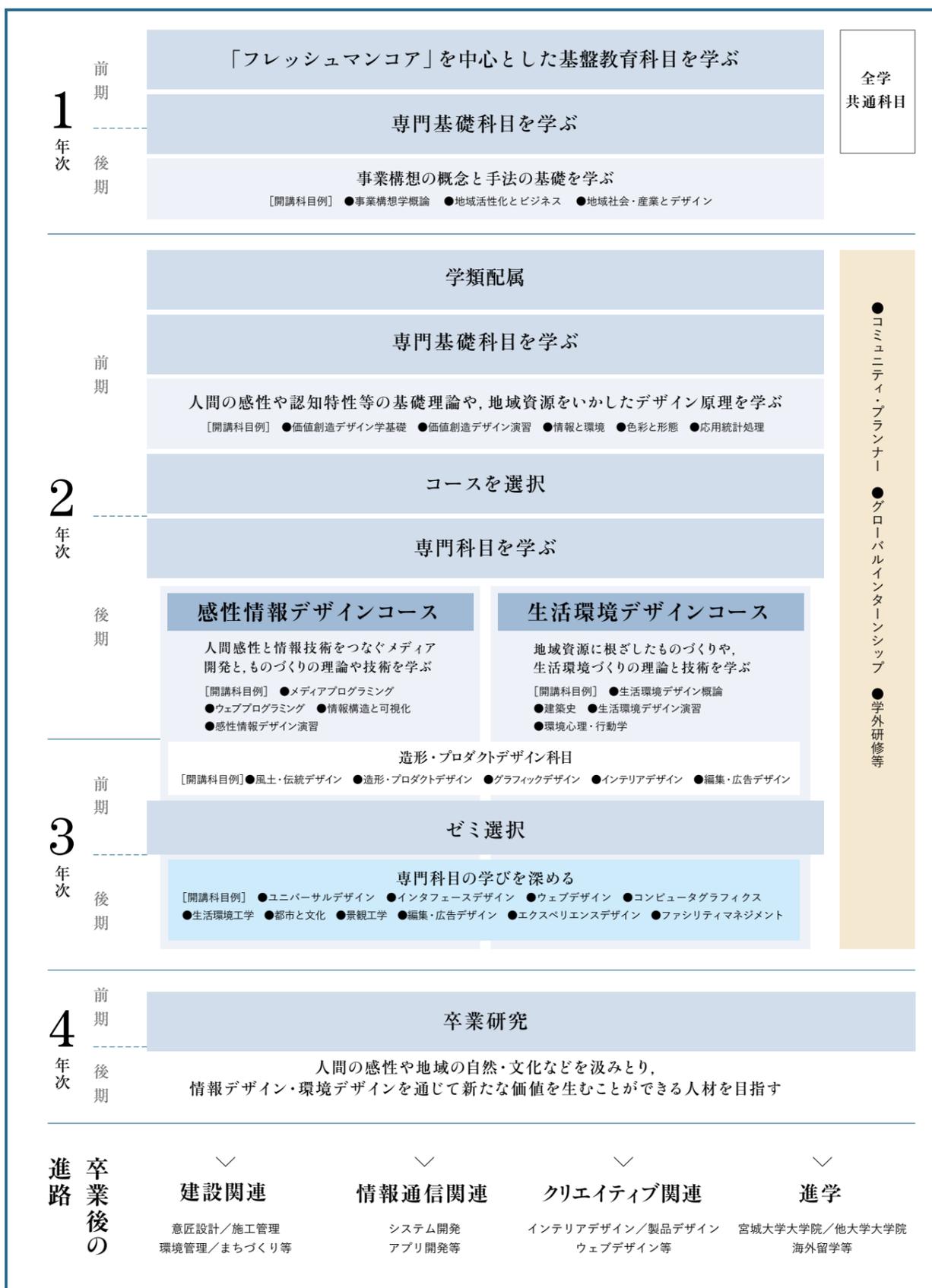
空間から地域、メディアを通して「デザインとは何か」を探究

住宅設計やインテリアデザイン、地域産業のための施設、アートのための空間デザイン、出版や編集のメディアデザインを研究します。さらに学生との共同作業で、東日本大震災以降の新しい時代の地域社会にふさわしい地域づくりや、生活環境のデザインを探究します。

MYU labs [研究室紹介]

価値創造デザイン学類：4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



社会で活躍する卒業生

時計という成熟した機能性に
造形の価値をプラスする

セイコーウォッチ株式会社 デザイン部
薄上 紘太郎さん(2013年3月卒業)

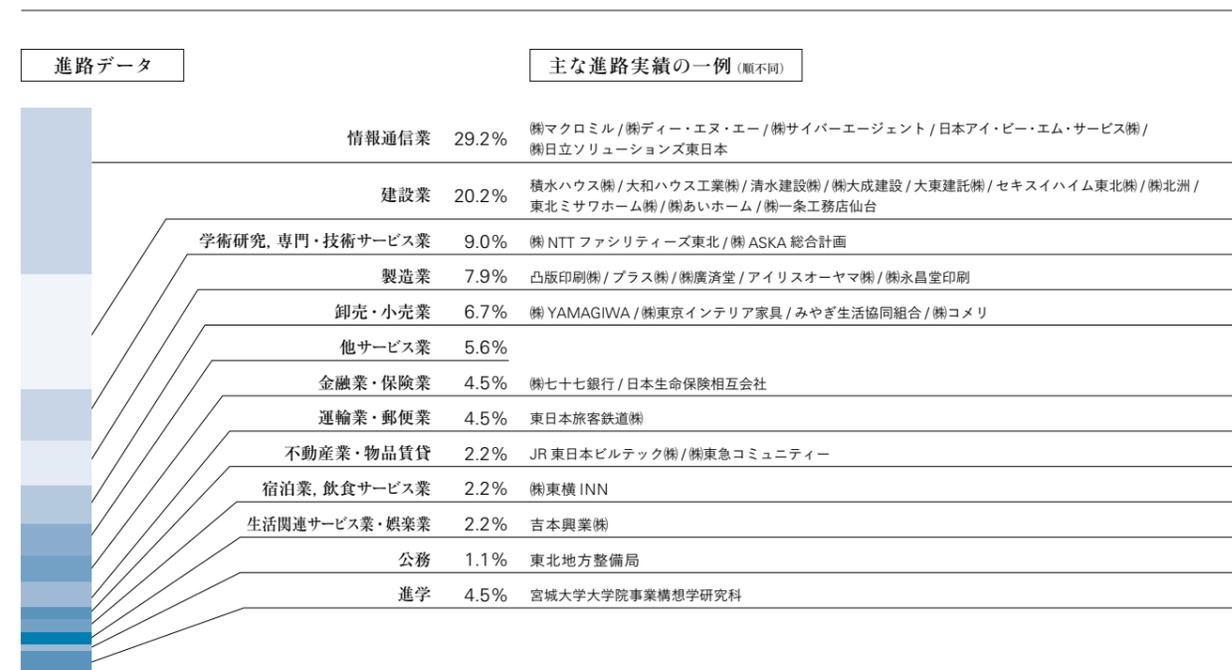
現在は、腕時計のプロダクトデザインとブランドのディレクションを担当しています。時計の歴史は古く、時を知るという単純な機能においては製品として成熟しています。だからこそ普遍的な価値を持ったデザインを造形的な視点で追求したいと思ったのが現職を志望した理由です。宮城大学の事業構想学部に入學したのは、オープンキャンパスで先輩の作品を見て興味を持ったのがきっかけでしたが、入学後、自分の作品を見て入学を決めたという後輩がいて驚きました。大学時代に一緒にデザインを学んだ仲間と再び作品作りをしたり、自分がデザインした製品のプロモーションを偶然知り合いが担当するなど、同世代とものづくりの機会が増えているので、夢を共有した人たちと少しずつそれを実現していけたらと思っています。



Graduates [卒業生の活躍]

価値創造デザイン学類

進路データ



進路データは、2020年3月19日現在 小数点以下第2位を四捨五入 デザイン情報学科の実績を掲載

MYU SUPPORT FOR STUDENTS #2

学生みなさんが安心して大学生活を送ることができるよう、様々なサポート体制を用意しています。

学修や研究活動、学生アクティビティなど、幅広くご活用ください。



学術情報コンテンツの集積・発信から独自のソフト事業まで。
学術情報センター（図書館）



学術情報センターは、大和・太白キャンパス図書館を所管しており、図書や論文、視聴覚資料など学術資料の収集・提供を通じて本学の教育・研究・学修支援に取り組んでいます。近年では、資料の収集・提供のみならず、学内の研究成果等を集積してデジタルアーカイブの構築を進め、学外に向けた情報発信にも力を入れています。学術資料については、電子化を進めるなど、様々な資料を効果的に活用してもらうための工夫をすするとともに、2014年からはイベント「六限の図書館」の開催など、新しい図書館の魅力を発信しています。

思い描いているキャリア・将来のこと、ご相談ください。



学生に寄り添ったキャリア形成支援。
キャリア・インターンシップセンター



宮城大学では、基盤教育や専門教育に加えて、インターンシップを含めたキャリア教育の充実を図るため、キャリア・インターンシップセンター（CIC）を設置しています。本センターでは、「キャリア教育支援プログラム」、「インターンシッププログラム」、「専門の職員による進路相談及び就職支援」を柱に、1年次より4年間を通して学生のキャリア形成に向けた活動をサポートしています。大学教職員が一体となり、みなさんをバックアップしていきます。

地域のために、地域とともに。

地域の発展に貢献、多彩に連携をコーディネート。
地域連携センター



企業や地方自治体・機関・団体のニーズや課題に対して、地域連携センターは宮城大学の多彩な人材・研究・技術・ノウハウなどを活かしながら、ともに実践することでイノベーションや活性化の解決策を生み出していきます。そして、地域産業の発展や魅力的な地域づくりなど地域の可能性を広げるために、従来の手法や領域に留まることなく、さまざまな分野での連携に取り組み、宮城大学のミッションの一つである地域への貢献を目指します。



食産業学群

食資源開発学類 入学定員 62名

フードマネジメント学類 入学定員 63名

入学者に求める能力

- (1) 食及び食を取り巻く環境に興味を持ち、自然科学の基礎知識を身につけている人
- (2) 論理的思考力を持ち、食の安全・安心、環境との調和などの課題解決に情熱を傾けようとする人
- (3) 地域社会の一員として、さらには世界的な観点から食産業を考え、その発展に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

食産業学群では、食資源開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学知識と技術を持ち、食産業全体を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材の育成を目指しています。

めざせる資格・免許等

- 家畜人工授精師(牛)
所定科目の単位取得により、修業試験の該当科目を免除
 - 食品衛生監視員
所定科目の単位を取得し、卒業後、所定の要件を満たした場合に取得可能
 - 食品衛生管理者
所定科目の単位を取得し、卒業後、所定の要件を満たした場合に取得可能
 - HACCP管理者
所定科目の単位取得により取得可能
 - 食の6次産業化プロデューサー
所定科目の単位取得により、「わかる(知識)」のレベル2として認定
- ※めざせる資格は学類ごとに異なります。

「食」を文理融合で学び、将来の食産業を支える人材を育成する

食産業学とは、農畜水産物の「生産」から「加工」「流通」「サービス」、そして「消費」までの全てをカバーする学問です。今、安全で、美味しく、体に良く、しかも簡便な食品が求められています。このことから、SDGsに謳われる飢餓の撲滅や海と陸を守る目標達成などとともに、抗毒性などを付与した農畜水産物や、保蔵性や栄養機能を付与した食品、高齢者も手間を掛けずに食べられる食品等々の研究は重要です。

その一方、嗜好性が多様化するなかで、消費行動をいかに的確に把握して食品を開発できるかが鍵になります。すでに食産業関連企業や官公庁で活躍する1600余名の卒業生を輩出する食産業学群では、こうした課題を自然科学、社会科学両面の学びから解決できると考えています。文系理系を問わず学べる日本唯一の食産業学群で、ぜひ一緒に成長していきましょう。



食産業学群 学群長
西川正純教授

食資源開発学類

入学者に求める能力

動・植物や微生物など、新たな食資源の開発に強い関心を持ち、幅広い科学的知識と技術を身につけ、社会に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

地域に根ざす食資源の高付加価値化や生産方法に関する知識・技術を養い、科学的素養に基づきながら地域資源を活用し国際的視点で食産業の課題を自発的に解決して、未来を開拓できる能力を育成します。

フードマネジメント学類

入学者に求める能力

食品製造・加工から流通・消費に至る食産業のプロセスについて、サイエンスとビジネスの両面において知識や技術を身につけ、社会に貢献しようとする人

大学教育を通じて発展・向上させる能力

フードシステムの構築に必要なサイエンスとビジネスの両面の知識・技術を養い、科学的素養に基づきながら地域資源を活用し国際的視点で食産業の課題を自発的に解決して、未来を開拓できる能力を育成します。

食資源開発学類



座学に加え、実験・実習を通して体験することで、学びをより深める



食材生産・加工実習Ⅰ
生産現場を体験し、基礎を学ぶ

イネ栽培、野菜栽培、乳牛からの搾乳等の実習を通して、食材生産の基礎を学びます。



動物性食材生産実験実習Ⅱ
動物性食材を科学する

いろいろな食肉、ミルクや卵の品質や美味しさの科学的な評価法を実験しながら学びます。



動物性食材生産学Ⅰ(乳・卵)
動物性食材を知る

食材としてのミルクや卵がどのようにして生産され、これらに何が求められているか考えます。



食資源開発学
食資源の歴史や生産方法を学ぶ

食用油、砂糖など食生活に欠かせない食資源の誕生の歴史や生産・加工技術を学びます。



付加価値植物性食材生産実験実習
未来の農業を支える品種や栽培法

新たな作物を生み出すゲノム編集技術や持続可能な農業生産のための栽培技術を学びます。



水産資源学
水産資源の現状と管理方法を学ぶ

水産資源の持続的利用のためにはどうするべきか、生物の生態から管理方法までを学びます。

In pursuit of novel and superior food resources.

私たちの生きる糧である“食資源”をどのように確保するか。

未来に向けた新たな食資源の開発とともに、農畜水産物をより価値の高い食材とするため、

サイエンスとビジネスの両面から“食”を学ぶ。

毎日の食を支える豊かで魅力ある食材をつくろう

世界的な人口増加に伴う需要の増大、地球規模の気候変動など、食料生産は多くの問題に直面しています。また国内では、大規模化、自動化など、生産方式が変化しつつあります。食資源開発学類では、食資源である植物や動物の生物学的基礎から、食材としての生産技術まで幅広く学ぶことができます。2年次後期からは植物生産科学コース、動物生産科学コースに分かれてそれぞれの専門科目

を中心に学んでいきます。いずれのコースでも食材生産と環境の関わりや経営の視点も取り入れ、加えて水生生物についても学ぶことができます。また卒業研究は、植物、動物、水生生物、環境そして経営・経済という幅広い分野から選んで取り組みます。食材の生産を多角的に学び、将来に向けた持続可能な食材生産と新たな食資源の開発について考えていきましょう。



食資源開発学類 学類長
中村茂雄教授



岩井香澄さん
宮城県宮城第一高校出身

Student Voice

農場での実習とともに、現場の実情を知る

太白キャンパスと坪沼に農場があるため、農作物の育て方や育種技術、取り巻く環境など、食材生産の土台を多方面に学ぶことができます。外部講師による講義も多くあり、現場の実情を知ることができるのも貴重です。先生方が気さくで面白い方ばかりなので、大学生活がとても楽しいです。

取得できる資格

家畜人工授精師(牛)
食品衛生監視員
食品衛生管理者
HACCP管理者
食の6次産業化プロデューサー

食資源開発学類で、卒業または特定の科目の修得によって学修分野に関する上記の資格が取得できる予定です。



菊地研究室

スマート農業から循環型農業まで、幅広い研究を

今後の農業は、ICT等の先端技術を活用していく必要がある一方、環境負荷への対策も重要です。本研究室ではスマート技術と植物生理学的知見を結びつけた作物生産技術の開発を行うとともに、未利用資源を活用した新たな循環型農業システムにも取り組んでいます。



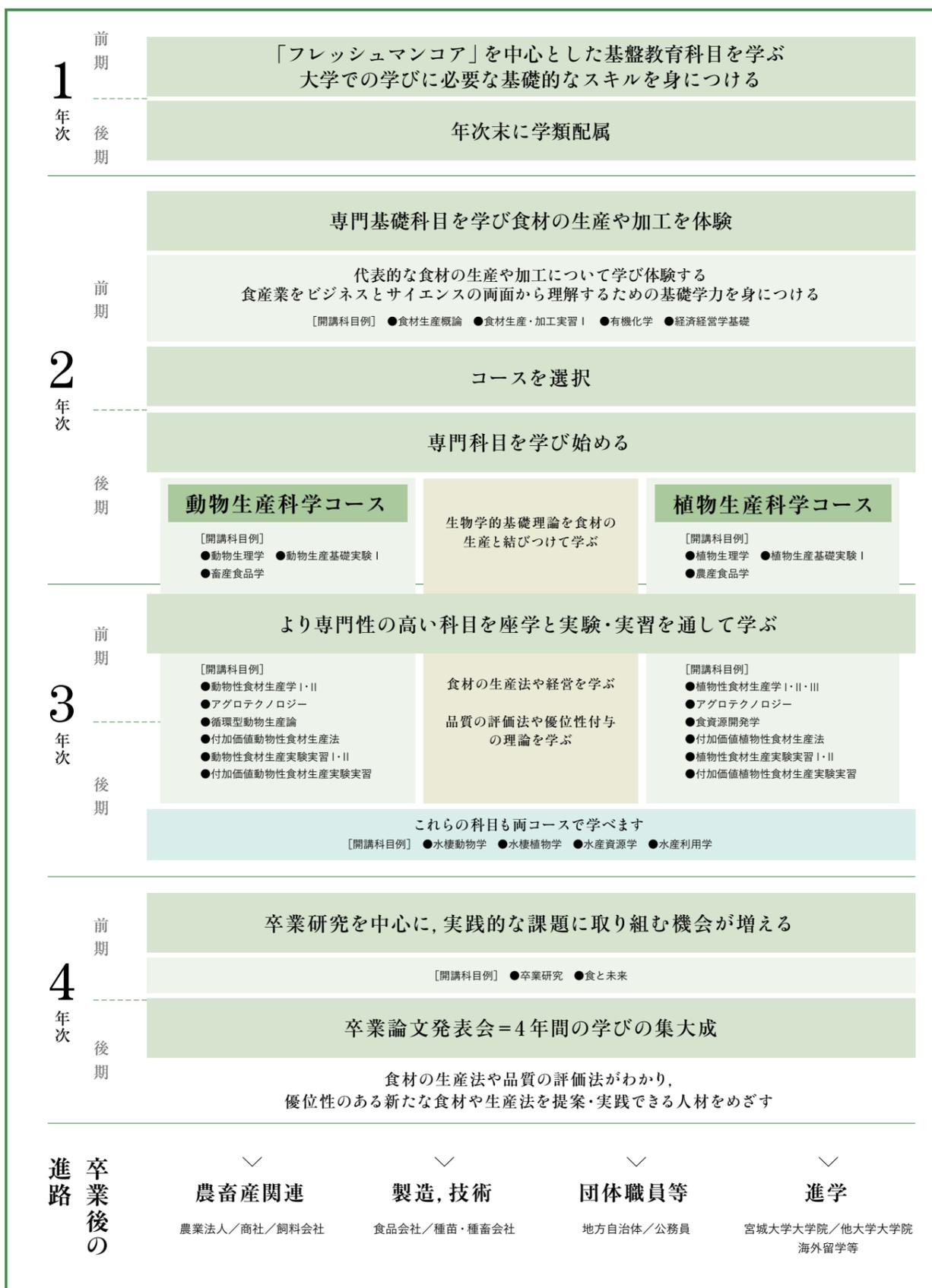
片山研究室

新たな養殖技術の開発に挑む

水産資源は減少の一途を辿っており、養殖技術の開発が安定した食糧生産において求められています。水産物の生態を明らかにし、未だ確立されていない新たな水産物の養殖技術の開発に向けて研究をしています。実験室での研究だけでなく、実際に水域に出て研究をしています。

食資源開発学類：4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



社会で活躍する卒業生

農業分野の地方公務員ならではの
四季を感じられる仕事の喜び

宮城県古川農業試験場作物育種部/技師
石森裕貴さん(2013年3月卒業)

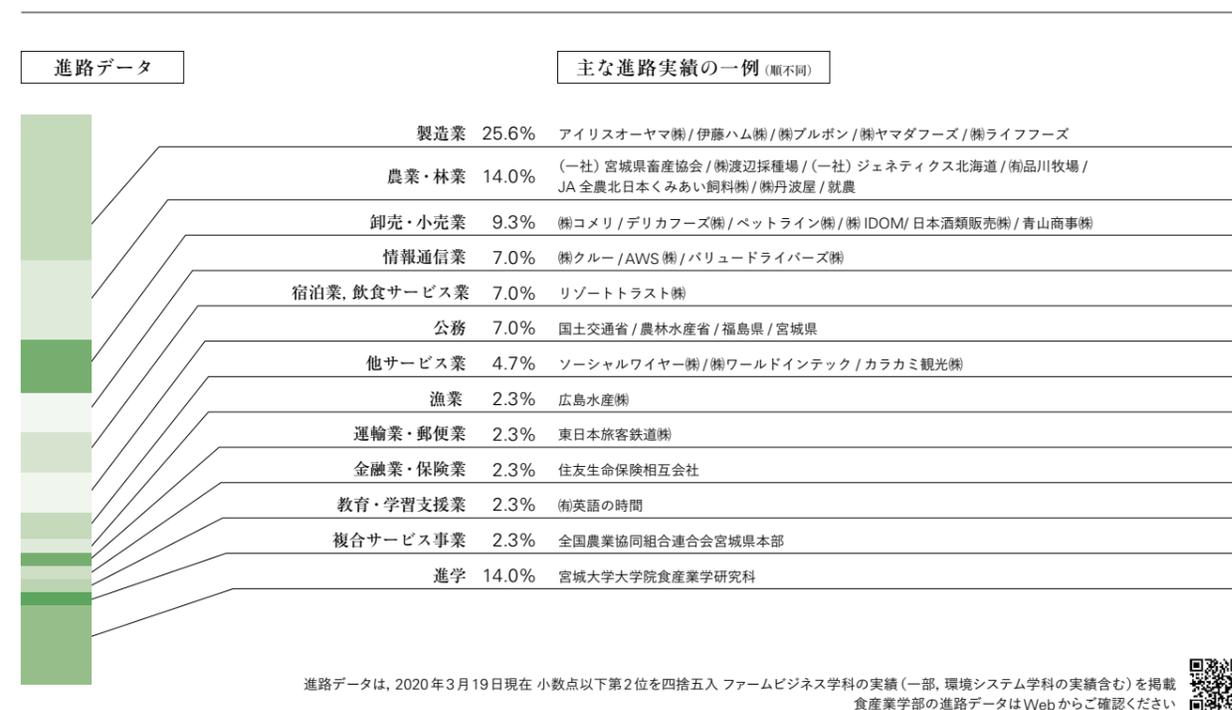
担当している仕事は、新しいイネの品種開発です。農業系の地方公務員では多様な仕事(研究・普及・農業行政)ができることをインターンシップなどで知り、現在の職業を選びました。季節ごとにやるのが異なり、春は種まきと田植え、夏は植物の観察調査、秋は収穫や分析、冬は成績のとりまとめや次の試験の設計といった具合に四季を感じられるのがこの仕事の楽しさです。大学を卒業して7年が経った今でも、時折研究室にお邪魔しています。先生はいつも温かく迎えてくれて、宮城大学は自分にとっての「帰れる場所」でもあります。「作物学」や「農場での実習」など、在学中に学んだ知識や経験は今の仕事に活かされており、いつか宮城大学卒業生の皆さんと一緒に仕事ができればいいなと思います。



Graduates [卒業生の活躍]

食資源開発学類

進路データ



フードマネジメント学類



マーケットのわかる技術者、技術のわかるマーケットターを育てる

- 1. 食の安全性管理**
 食の安全を確保するしくみとは
 基本的な衛生管理から世界標準の品質保証システムまで、企業の実践的な話も交えて学びます。
- 2. グローバル・フードシステム論**
 今日の食のグローバル化と貿易
 日本の食は6割以上が海外からの輸入です。この食のグローバル化の深化と貿易について理論と現実の両面から学びます。
- 3. 食品経済・政策論演習**
 自らの視点で食産業を探究する
 産業分析の基本的な手法を学び、その後、冷凍食品製造業やパン製造業など食産業の分析にグループで取り組みます。
- 4. 食材生産・加工実習 II**
 食品の「加工」を体験して学ぶ
 この実習では食材を加工して様々な食品を作ります。ポイントは、プロセスを意識し、そこで起こる様々な変化を理解していくことです。



Classes [授業紹介]

フードマネジメント学類

Eat to live? Live to eat?

食べることは人間の生命維持だけでなく、人生の充実にも関わり深い。

米や麦、肉や野菜などの食材がおいしく安全で、栄養にあふれた食品となり、

人の血となり肉となるまでの全過程を、科学・技術とビジネスの両面から学ぶ。

Change the world !! 世界の食産業を支える「食」のスペシャリストになろう

フードマネジメント学類では、食に関する広い知識を学ぶことができます。3年次には、より専門性の高い科目を学ぶために、フードビジネスコースとフードサイエンスコースに分かれて学びます。一方、コースを超えた履修も可能で、「食」を通じて「文理融合」を学ぶことができます。さらに4年次には、4年間の集大成として卒業研究を行い、両コースの学生が参加する発表会が催され、学生同

士の活発な質疑応答も行われます。授業や課外活動の一環として、県内外の企業等と共同で「商品開発」も行っており、食に関してより実践的に学ぶこともできます。さらに昨年は、授業の演習で、商品開発したスイーツが、大手製パン企業より販売されました。このほか、学生の酒造実習を通じた清酒製造やお弁当の開発、自治体と「ゆず」を使った商品の開発なども行っております。



フードマネジメント学類 学類長
金内誠教授

Student Voice



高崎凌さん
宮城県佐沼高校出身

文理融合の視点で食品と地域について幅広く学ぶ

食の生産から販売・流通まで、食品について文理融合の視点で幅広く学ぶことができます。また「地域フィールドワーク」をはじめ、県内の企業について知る機会が多くあります。食品企業で働く際に求められる「食品衛生管理者」等の資格取得が可能であることも貴重な点です。

取得できる資格

食品衛生監視員
食品衛生管理者
HACCP管理者
食の6次産業化プロデューサー

フードマネジメント学類で、卒業または特定の科目の修得によって学修分野に関する上記の資格が取得できる予定です。



元木研究室

食に対する心の働きを解明する

食生活は、色・形・音・匂いなど様々な感覚に彩られています。元木研究室では、心理実験・視線/脳機能計測などの手法で、五感が食品評価・購買行動へ及ぼす影響を研究しています。消費者の心の働きを解明することで、より豊かな食生活の提案とマーケティング実務への貢献を目指しています。



堀田研究室

片手に理論、片手に現場

外食・中食産業は、まだまだ新しい学問です。また、外食や中食の最先端はファッションに似たところもあり、理論を裏付けるため産地やレストランなどの現場に出向き実証することが必要になってきます。常に「片手に理論を持ち片手に現場を持つ」意識で研究をしています。

MYU labs [研究室紹介]

フードマネジメント学類：4年間の学び

Curriculum [4年間の学び]



社会で活躍する卒業生

宮城大学の魅力は
キャリア教育の豊かさ
将来はベトナムで活躍したい

三谷産業株式会社 ケミカル事業
ライフサイエンス営業課
ファム ティー ゴック ジェップさん(2019年3月卒業)

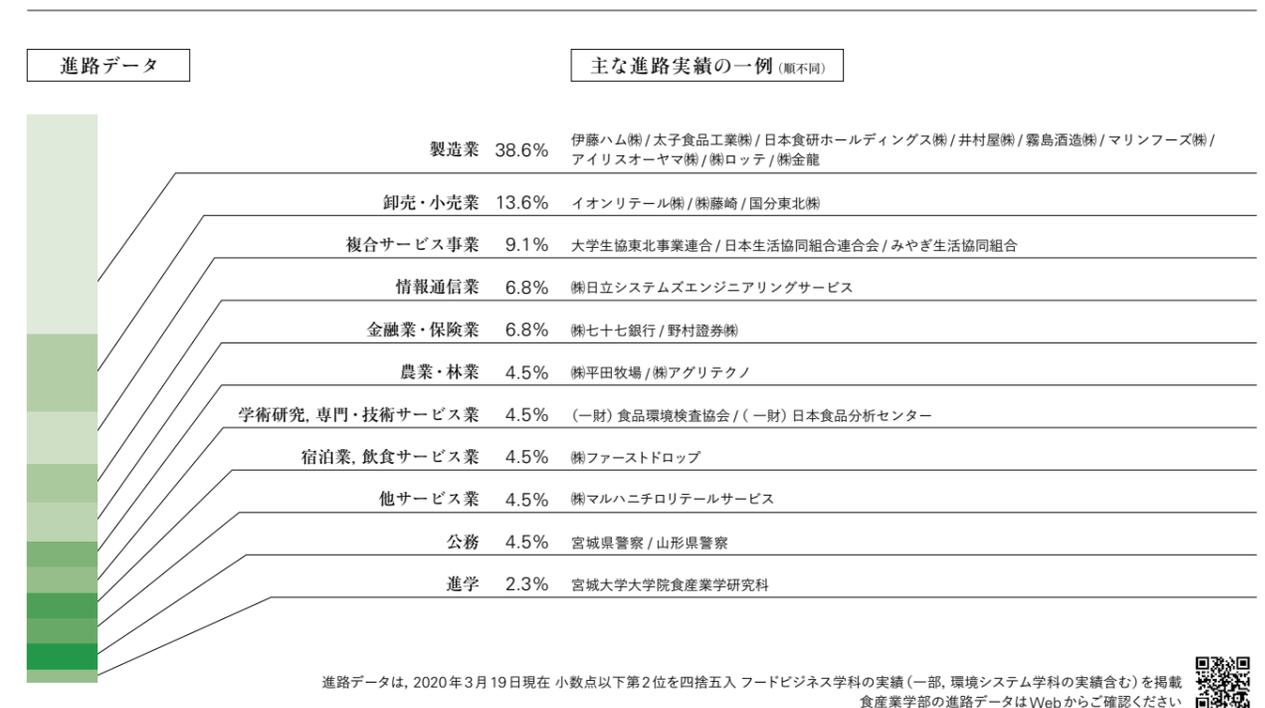
私の担当する仕事は、食品メーカー向けに海外の食材を販売することや機能性食品の素材の製造を受けることです。食材はヨーロッパや東南アジアから調達しています。受託製造は国内外の協賛会社やベトナムの子会社で行っています。現在の会社を知ったのは、在学中に研究室の先生のもとに共同研究の問い合わせがあったことがきっかけです。調べてみるとベトナムで広く事業を展開しており、将来はベトナムで活躍できるのではと入社を決めました。宮城大学の魅力は、先生の優しさと就職率の高さです。就職に関する情報収集やキャリア教育がしっかりしていると感じます。現在は日本国内での営業活動が主ですが、将来はベトナムを含む海外の食品メーカーに対しても販売できるよう、語学を磨き、経験を積んでいきたいです。



Graduates [卒業生の活躍]

フードマネジメント学類

進路データ



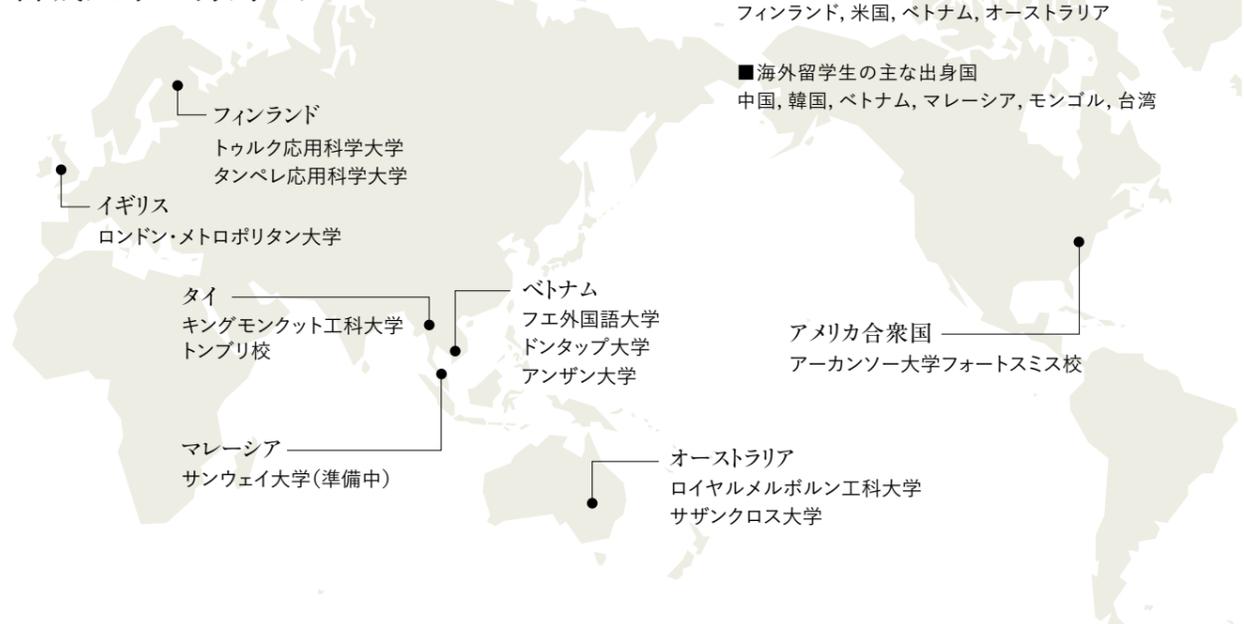
国際交流・海外ネットワーク

PUSH, PULL, and GROW.

国際交流は、①学生を海外の多文化空間に (PUSH), ②留学生・多文化空間を宮城大学に (PULL), そして、③海外だけでなく日本のキャンパスでも多文化理解力を醸成する (GROW), これらをコンセプトに学生が教職員とともに「ワクワク感」をもってグローバル・ステージで活躍できるよう国際交流を進めています。このように、宮城大学では、協定校をはじめとした海外留学、海外からの留学生の受け入れ、キャンパス内に設置したグローバルコモンズでの多文化交流などを通して、1年中「グローバル」を体験することができます。

宮城大学の海外ネットワーク

2020年3月時点



国際交流・海外学修プログラム



宮城大学海外交換留学支援プログラム

アーカンソー大学フォートスミス校 (米国) やトゥルク応用科学大学 (フィンランド) など海外協定校において、1学期もしくは1年程度、原則として本学での専攻を生かした教育プログラムを履修することができます。英語によるコミュニケーションスキルの向上のみならず、現地の文化や習慣、専攻分野での知見を深めることにより、将来グローバル・ステージで活躍できる有能な人的資源として必要な能力を獲得することを目指します。



リアル・アジア (オーストラリア)

学生に人気の高いオーストラリアで約2週間、協定校であるサザンクロス大学などにおいて、英語・文化研修を実施するほか、現地企業訪問を行います。単なる英会話ではなく、英語を通して現地の社会経済状況を学修し、PBL (問題解決型学習) の手法も活用しながら実践的なプログラムを構築しています。この短期研修を体験することで、社会でも通用する積極性や協調性、グローバルコミュニケーション能力などを養います。

大学院 Graduate School

学びをさらに深め、高度な研究能力を養う充実した環境があります。

	看護学研究科	事業構想学研究科	食産業学研究科
博士前期課程	基礎看護学分野 成熟期看護学分野 次世代育成看護学分野 広域看護学分野	ビジネスマネジメント領域 ビジネスプランニング領域 空間デザイン領域 情報デザイン領域	食品イノベーション領域 食品ビジネスマネジメント分野 / 食品技術開発分野 農環境イノベーション領域 ファームマネジメント分野 / 環境マネジメント分野
博士後期課程	生涯健康支援看護学分野	産業・事業システム領域 地域・社会システム領域	食品研究領域 農・環境研究領域

学生数

学群 (学部)	学類 (学科)	1年	2年	3年	4年	合計	研究科	課程	1年	2年	3年	合計	
看護学群 (学部)	看護学類	102	95	105	102	404	看護学研究科	博士前期課程	6	13	-	19	
								博士後期課程	1	4	8	13	
事業構想学群 (学部)	事業計画学科		1	4	114	119	事業構想学研究科	博士前期課程	8	9	-	17	
	デザイン情報学科		1	7	102	110			博士後期課程	2	1	5	8
	学類未配属者	183				183		食産業学研究科	博士前期課程	8	7	-	15
	事業プランニング学類	12	65	63	140	博士後期課程				3		5	8
	地域創生学類	11	63	60	134								
	価値創造デザイン学類	11	85	77	173								
食産業学群 (学部)	ファームビジネス学科		1		45	46	食産業学研究科	博士前期課程	8	7	-	15	
	フードビジネス学科			2	53	55			博士後期課程	3		5	8
	環境システム学科				37	37							
	学類未配属者	118				118							
	食資源開発学類	8	64	59	131								
	フードマネジメント学類	10	65	62	137								
						合計						80	
						合計						1,787	

※2019年度学校基本調査から抜粋

入学金・学費・奨学金

学費・入学時における学生諸経費 (2019年度実績)

入学金	県内出身者	282,000円
	県外出身者	564,000円
入学時 学生諸経費	看護学群	67,004円
	事業構想学群	47,660円
	食産業学群	47,660円
	※研究科 (保険料のみ)	2,430円～13,500円
授業料	年額	535,800円 (前期・後期, 半額ずつ納付) [前期] 4月30日 (2019年度は5月31日) [後期] 10月31日
	納付時期	

授業料の減免等制度 (2019年度時点)

減免	一定基準以上の成績及び経済的要件を満たす場合、申請により、全額又は半額免除される場合があります。
分割納付	経済的理由で授業料の一括納付が困難な場合、申請により、分割納付を認める場合があります。
納付猶予	経済的理由で授業料を指定納期までに納付することが困難な場合、申請により、納付猶予を認める場合があります。

宮城大学は、高等教育の修学支援新制度対象大学になりました。

奨学金制度 (独立行政法人日本学生支援機構奨学金)

独立行政法人
日本学生支援機構
奨学金

高校等での予約採用以外は、毎年4月に説明会を行い、奨学生を募集します。貸与金額等の詳細は、日本学生支援機構Webサイトをご確認ください。

日本学生支援機構Webサイト

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>

※貸与期間: 採用年度から標準修業年まで。



その他の奨学金 各種団体等の奨学金は、随時学内掲示板等でお知らせします。

大和キャンパス

大和キャンパスは、自然と共生し、地域に開かれた大学としてデザインされました。人が自然とふれあう泉パークタウンと、県内有数の工業エリアである大和リサーチパークに隣接しています。近隣には、県立図書館や産業技術総合センターなどの施設もあり、研究に最適な環境です。



①本部棟 ②ブリッジ棟 ③エントランス広場 ④交流棟 ⑤体育館 ⑥サークル室棟 ⑦材料実験棟 ⑧グラウンド ⑨北側駐車場 ⑩(仮称)デザイン研究棟建設中

太白キャンパス

太白キャンパスは、太白山山麓の住宅街に位置し、学内農場である旗立農場を擁する自然豊かなキャンパスです。近隣の附属坪沼農場を含めた個性豊かな教育施設群の中で、様々な視点から「食」を学ぶことができます。



①体育館 ②テニスコート ③レストラン棟 ④南サークル棟 ⑤北サークル棟 ⑥動物代謝棟 ⑦畜産棟 ⑧駐車場 ⑨管理棟 ⑩学生会館メモリアルホール40
⑪多目的ホール ⑫講義棟 ⑬ガラス温室 ⑭運動場 ⑮実験棟 ⑯南研究棟 ⑰北研究棟 ⑱食品加工棟 ⑲水利実験棟 ⑳リサイクル棟 ㉑材料実験棟 ㉒水産実験棟



OPEN CAMPUS 2020

MYU OPEN CAMPUS 2020

7/5 SUN 太白キャンパス
食産業学群

7/12 SUN 大和キャンパス
看護学群・事業構想学群

9:00 OPEN-9:30 START

※日程や開催方法に変更がある場合、本学Webサイトでお知らせします。

大和キャンパス

大学本部/看護学群/事業構想学群
大学院看護学研究科/大学院事業構想学研究科

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
宮城大学事務局(大学全般) Tel 022-377-8205 (代表) Fax 022-377-8282

○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約15分、「泉中央駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「泉中央駅」バスプール3番又は6番から、宮城交通バス「泉パークタウン」行き(宮城大学経由)で約30分~35分、「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車

「仙台駅前」バスプール2番から、宮城交通バス「宮城大学」行きバスで約50分、「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車

太白キャンパス

食産業学群/大学院食産業学研究科

〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立二丁目2番1号
宮城大学事務局(太白事務室) Tel 022-245-2211 (代表) Fax 022-245-1534

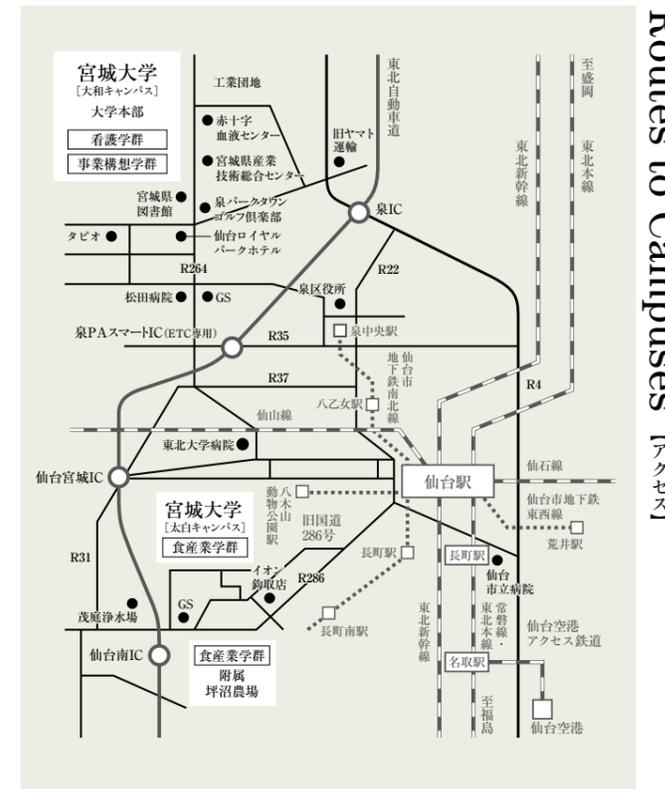
○仙台市地下鉄
南北線「仙台駅」から約15分、「長町南駅」下車。バスに乗り換え

○バス利用
「長町南駅・太白区役所前」バスプール4番から、宮城交通バス「日本平」行き又は「仙台南ニュータウン」行きで約20分、「宮城大学食産業学部前」下車

「仙台駅前」バスプール7番から、宮城交通バス「日本平」行き又は「仙台南ニュータウン」行きで約40分、「宮城大学食産業学部前」下車



アンケートご協力をお願い
宮城大学ではみなさまのニーズに合った適切な情報発信を目指しています。
大学案内に関して左記QRコードより、アンケートのご協力をお願いいたします。



Routes to Campuses (アクセス)

宮城大学 大学案内 2021
企画・編集: 宮城大学 広報専門部会/デザイン: 株式会社フロット
撮影: 渡辺然 (Strobelight), 株式会社フロット/印刷: 田宮印刷株式会社



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY